

どどめ雪

脚本 福原充則

【登場人物】

鶴子（49／長女）

幸子（46／次女）

雪子（36／三女）

妙子（27／四女）

高梨和夫（29）

貞之助（48／幸子の夫）

なにせ120メートルもあったので、その町の、どの家の窓からだってアレを見ることが出来たし、外の人間には「あの町といえばアレ」という物であったが、完成したのは1992年なので、古くから住んでいる者からすれば異物でしかなかった。とはいえ悪く言うのも罰が当たりそうなので、みんな気にしないふりをしているうちに20数年が立ち、その町は大仏の町になった。

といった背景を語ることなく、つまりは茨城県牛久市の話なのね？ということを明言することもなく、劇場は静かに暗転する。

暗闇の中でシベリウスの「フィンランディア」が鳴っているかもしれない。

明転。

舞台はいくつかのエリアに分かれているかもしれない。

そのうちのひとつは家具の置いてある居間になる可能性が高いが、他のエリアはさまざまな場所になるであろう。

その居間エリア。

古いが、風情があるわけではなく、ただ古いだけの平屋の居間が薄白く浮かびあがる。

他に客間（雪子と妙子の部屋）と寝室（貞之助と幸子の部屋）があるらしいが見えない。

鳥かごが見えるが、なぜか鳥は入っていない。金魚鉢も見えるが、小物入れになっている。

いつか飼っていて、死なせしまった名残だろう。

幸子と貞之助夫婦の姿が見える。

幸子は焼酎を飲みながら、爪楊枝で漬け物を食べている。

2人、窓の外を見ている。

幸子　：遺体でみつかった42才の主婦って言うのにね、映った写真じゃセ

ーラー服着てんのよ。

貞之助　　そういう趣味ってことだろ？

幸子 誰が？

貞之助 犯人が。

幸子 犯人？

貞之助 犯人が殺して着せたんだろ？ …あ、着せてから殺したのか。

幸子 …。

貞之助 どっち？

幸子 違う。

貞之助 ん？

幸子 (それ以上説明せずに) …葬式用の写真、持ってる？

貞之助 (それだけで話を理解して) …ああ、

幸子 日川浜のキャンプ場に行った時に写真撮ったでしょ。

貞之助 うん。

幸子 あれにして。私が殺されたら。

貞之助 やたら大きなサングラスしてたぞ、あれ。

幸子 (聞いてない) 今更卒業アルバムかなんかから引っ張りだされたら、大恥

だよ。

貞之助 そんな時は死んでんだから。

幸子 あんただって恥ずかしいでしょ。死んだ妻がセーラー服着てテレビで

きたら。

貞之助 （同意ではなく相づちとして） うん。 ……今時、主婦ってのも贅沢だな。

幸子 ……（興味ない）。

貞之助 誰かいたっけ？、主婦。

幸子 ……いない。（と言いながら何か探し出す）

貞之助 いないよな。 ……なに？

幸子 （まだ探しながら） カメラ。

貞之助 今、撮るの？

幸子 （探すのを諦めて） ……今は撮らない。

貞之助 今はやめときなよ。朝だよ。4時だよ。

幸子 撮らないよ。

貞之助、窓の外を見る。窓の外の向こうに何かあるようだ。

幸子 寝たら？、休みの日くらい。

貞之助 身体が夜勤合わせになっちゃってな。

幸子 来週からまた日勤でしょ。

貞之助 （「お前はなんで起きてるの？」という手振り）

幸子 電話で起こされたの。お姉ちゃんの。

貞之助 ああ。

幸子 電話だと泣くんだよ。会ってる時はイライラしてるのに。

幸子が漬け物を食べる音が響く。

貞之助 お前、それ食べながら電話に出たんじゃないだろうな。

幸子 なんで？

貞之助 鶴子さんに聞こえるだろ。音。

幸子 で？

貞之助 気分悪いよ。例の相談だろ？。食いながら聞く話じゃないよ。

幸子 あ、そう。

貞之助 …。

幸子 なに？

貞之助 お前、付き合いたての頃にもさ、

幸子 あんたの付き合いたての頃の話、大抵別の女の話だからね？

貞之助 …そんなことないよ。

幸子 そうだよ。いいけど。

貞之助 …セックスしながらプリン食べてたのお前か？

幸子 賞味期限が切れそうだったんだよ。

貞之助 お前なんだな。

幸子 好きだね、付き合いたての頃の話。
貞之助 好きでしてゐるわけじゃないよ。

貞之助、窓の外に向かって手を合わせる。

貞之助 …寝るわ。

幸子 なに今の。

貞之助 ん？

幸子 やめて。

貞之助 ああ…、いや、目が合ったから、一応。

幸子 目が合ったからっていちいち拝まないで。

貞之助 向こうが見てくるから、

幸子 目、合わせなければいいでしょ。

貞之助 …そらすのも変だろ。気を使つてゐるみたいで。

幸子 拝むのだって気を使つてゐるわけでしょ。

貞之助 まあな。…どうするの？

幸子 このまま起きてる。

貞之助 うん。

幸子 おやすみ。

暗転。

音楽。例えばバッハ「蟹のカノン」など。

一瞬、真っ暗になったように見えたが、窓から薄く朝陽が差し込んでいるのが見える。

鶴子、幸子、雪子、妙子、貞之助、高梨が居間で食事をしている。

小さなテーブルにぎゅうぎゅう詰めで座っている。

テーブルの真ん中の鍋にパスタ。脇の小鍋にミートソース。大皿に揚げ物。

それらをそれぞれ取り分けながら食べている。

フォークではなく箸で。

他に1、5リットルのコーラのペットボトルが置いてあり、高梨以外はコーラを飲みながら食事するのが習慣のようだ。

また茶筒のようなものにタバコが入っている。一同の共用のタバコである。

鶴子 …遠慮してる？

高梨 あ、いえ。はい。いえ。大丈夫です。

幸子 (ペットボトルを掲げて) お姉ちゃんは？

鶴子 知らない。(高梨に) 食べて。

高梨 食べてます。

一同、黙って食べる。

黙って食べるが、高梨以外は音を立ててパスタを啜る。

高梨 あ、おいしいです。

一同、箸を止める。

高梨 …。

鶴子 和夫君。

高梨 あ、はい。

鶴子 今日のはさ、これバラシちゃうんだけど、雪子の、普段の食事を和夫君にも知ってもらいたいっていう会なのね。その方が判断もしやすいでしょ？

雪子 言わなくていいよ。

高梨 そんな、僕は僕で雪子さんに選んで頂く立場なので。

鶴子 うん。それはそうなんだけどそういう話じゃなくて、これ普通のスパゲテ
イだし、誰も特別おいしいと思うって食べてないってことだけは言っておきた
くて。

高梨 …あ、…誰も。

一同、高梨を見ながら食事続ける。

妙子、タバコに火を点ける。以降、タバコと箸を同時に持って器用に食
事する。

貞之助 (雪子に) 最初の時はどこだったの？

幸子 最初って？

貞之助 お見合いの。

雪子 美濃部。

貞之助 おお！美濃部か。

雪子 二階のお座敷、初めて入った。

貞之助 うちらクリスマスはいつもあそこで天ぷらだよな。

幸子 イカね、大ぶりの。

貞之助 仕事、なにやってんだっけ？
高 梨 （窓の外を指して）飲食関係です。

一同、つられて窓の外を見る。

貞之助、意味がわからず、

貞之助 …ん？

雪 子 大仏様んところにあるでしょ。レストランみたいの。

貞之助 ああ、行ったことあるよ。

高 梨 あの店です。

貞之助 へえ。

会話が途絶えて、またスパゲティを啜る音が聞こえる。
鶴子もタバコを吸い始める。

鶴子 え、誰だと思って喋ってる？

高 梨 はい？

鶴子 （貞之助を指して）この人、誰？

高 梨 …あ、…えっと、すみません、ご兄弟の方かと、

鶴子　　うちは四姉妹です。

高梨　　：ですよね。

幸子　　私の旦那。

貞之助　婿養子、婿養子。

高梨　　ああ…、

鶴子　　わかんなかったら聞かないと。わざと紹介しないまままでいたらどうするの
かなって思ってたけど、特に自分からは動こうとしなかったね。問題を打開
する能力に著しく欠ける人物だ、和夫君は。

妹達は目配せし合うが、誰も鶴子になにか言ったりはしない。

妙子　　（鶴子に呆れて話題を戻す）で、美味しかったの？

貞之助　ん？

妙子　　レストラン。

貞之助　ああ、なんかすごいぐずぐずのカレー食べたよ。

高梨　　コロッケカレーですね。

妙子　　よくわかるね。

高梨　　ぐずぐず系だとコロッケカレーだと思います。

貞之助　あれ、コロッケだったのか…、

高 梨 安い冷凍コロッケ使ってるんで、こう、カレーかけて、お客さんところに届くまでにくずれちゃって…、

鶴 子 ぐずぐずになっちゃうんだ？

高 梨 十中八九は。

鶴 子 そんなんでお金もらう仕事って夜中に自己嫌悪で目が覚めたりすると思
うんだけど、大丈夫？ちゃんと寝れてる？

高 梨 …寝れてます、ね。

一 同 …。

貞之助 ま、安心は安心だろ。

幸 子 は？

貞之助 いや大仏さんところの店ならさ。

妙 子 鎌倉ならまだしもあの大仏じゃねえ。

貞之助 そこそこいつも観光バス停まってるよ。バイト？

高 梨 一応、社員です。

貞之助 アデイドスとか着る？

高 梨 …アデイドスですか？

貞之助 M？細かいからSかな？

高 梨 Mですかね。

貞之助 じゃああげるよ。

貞之助、着ていたジャージを脱いで渡す。

高 梨 …（何か別の言葉を言いかけたが）ありがとうございます。

貞之助 うん。

雪 子 アウトレットわかる？

高 梨 インターの？

雪 子 あそこの人だから

幸 子 統括だっけ？

貞之助 統括。統括部長。

幸 子 あのアウトレット全体をね、統括してるの。

高 梨 トウカツってどんな字ですか？

貞之助 （聞いてない）いろんな部署があるからさ、正門、裏門、駐車場、バックヤード、もちろん売り場。昼と夜でも仕事が違うし、その全体の警備を統括しているのが俺。

高 梨 …？

鶴 子 わかってない顔してるよ。

妙 子 だから一番偉い警備員。

高 梨 あ。…（ジャージ）ありがとうございます。

貞之助 タグのところの名前書いちゃったけど、まあ見えないから。

SADANOSUKE って。ローマ字で。

妙子 ちなみにキ姉ちゃん（雪子姉ちゃんの略）の話は聞いているの？

一同の食事の手が止まる。

幸子 まだ早いでしょ。

雪子 …。

高梨 …？

妙子 そう？

幸子 あんたのお金の話もまだなんだから。

妙子 それはこの人に関係ないから。

雪子 はあ？

妙子 なに？

幸子 …ちよつと身内の話だから目、つぶってて。

高梨 あ、はい（と両手で目を覆う）。

妙子 …聞くつもりで呼んだんでしょ？

幸子 タイミングもまずいし、食事中に話すことじゃないし。

妙子 中姉ちゃん（妙子から見て真ん中のお姉ちゃんの意）が気にしすぎなんだ

よ。

幸子 私じゃなくて雪子が、

妙子 別に飯が食えなくなるほど下品なもんでもないし。

鶴子・幸子 シッ！！

幸子 (顔の前で手を振って確認) 大丈夫、聞こえてない。

高梨 …。

高梨、聞いちゃいけない話だと分かり、以降の会話中に、目を覆っていた両手をそっと移動して、耳を塞ぐ。目はつむっている。

雪子 …どうせ話すんだし、私はいつでももいいけど。

幸子 別に黙ってたっていいんだから。

雪子 黙ってて済んだことなかったでしょ？

妙子 今時そんなに珍しい話でもないのに(と立ち上がる)。

鶴子 なに？

妙子、空のペットボトルを振る。 “おかわり取ってくる” の意に取れないくもない。

妙子 キ姉ちゃんもいいんでしょ？

雪子 (妙子の態度は少々気に入らないが) 私はいいよ。
妙子 姉ちゃんも中姉ちゃんも気にしすぎ。

と言いながら出て行ってしまおう。

鶴子・幸子 …。

貞之助 ま、なんにしろ、なにしろだな。

幸子 なに？

貞之助 男がいない方が話しやすいだろ？

雪子 …。

幸子 急にいなくなると変でしょ？

貞之助 いやいや、そこは…、ね。

と貞之助、部屋を出ていく。

幸子 ちよつと、

幸子と貞之助、廊下でなにやら話している。

貞之助 だって、やだよ、俺。
幸子 …逆にいたほうが冷静に聞いてもらえるからもしれないから。

貞之助、話の途中で行ってしまおう。
幸子も追って去っていく。
雪子、黙って一連の様子を聞いていたが、急に立ち上がる。

鶴子 …え？、ん？

雪子 (自分のスマホを出して) 貞之助さんの借りてくる。画面大きいから。
鶴子 …ああ。

部屋には鶴子と高梨が残った。

高梨、人の気配がなくなったのに気が付き、耳を塞いでいた手をそつと離す。まだ目はつむったまま。
と、鶴子の携帯に着信が。バイブ音にびつくとする高梨。
鶴子、メールを見て、しくしくと泣き始める。

高梨 (泣き声が気になり) あの…？

鶴子 (泣いている)

高梨 …すいませーん、

鶴子 (泣いている)

高梨 ……あれ、……目、開けていいですか？

鶴子 ……。

高梨 ……あれ？

鶴子 (鼻をかむ)

高梨 (人がいないと思ったのでびっくり) ……あ、すいません。

鶴子 (泣きがやや強くなる)

高梨 すいません、…あの、…すいません！、…？、…目、開けますよ？

鶴子 もうやだあ(と言って立ち上がる)

高梨 ……え、開けますよ？、……すいません、開けます。

高梨が目を開ける。目の前には誰もいない。

高梨 ……。

が、ふすまの向こうから鶴子が見ている。

鶴子がふすまを閉じた音で、高梨は初めて誰かがそこに立っていたこと

に気付く。

高梨 …あの？

高梨、そっとふすまに近づき、開けようとする。
と、一瞬早く、雪子がふすまを開ける。
雪子、手にタブレット端末を持っている。

雪子 …。…わあ。

高梨 …みなさんは？

雪子 さあ。

高梨、他に誰もいないのを確認して、

高梨 …緊張したあ。

雪子 そうだね。

高梨 (ジャージの下の服を見せ) ラフすぎた？
雪子 似合ってる。

高梨 そう？

雪子 大抵の人が似合う服だけだね。

高梨 そうだね。無難に無難に。

雪子 うん。

高梨 敬語、やめてみた。

雪子 うん。気付いてる。

高梨 …。

雪子 …。

高梨 あと、いくつの、ステップを、僕達は踏むのだろう。そういうことになるために。

雪子 …。

高梨 あ、そういうことって別にあのやらしい意味じゃなくて、

雪子 わかってる。

高梨 うん。

雪子 …。

高梨 …ひとつひとつのステップを楽しもうと思っています。

雪子 (笑って) 敬語に戻ってるよ。

高梨 あ。

雪子 これ見て(とタブレットを渡す)。

高梨 え、あ、はい。

高梨、渡されたタブレットを見る。画面には誰かの裸が映っているようだ。

高梨 …え、や、なんか、変なものになっちゃってる。

雪子 なんだかわかる？

高梨 …裸かな。

雪子 うん、私。

高梨 …。

雪子 検索すると出てくるんだよね。

高梨 …あ、…ええ？

雪子 見たことあったりする？

高梨 (混乱して聞いてなかった) …はい？

雪子 …私、こう見えて、こう見えて？、…3人としか付き合ったことないから。それ載せたのも大体誰だかわかってるんだけど。

高梨 …。

雪子 ちゃんと見ていいよ。そのために持ってきたから。

高梨 …いや、

雪子 …。

高梨
…。

高梨、見ようか迷いつつ、見ずにタブレットを机の上に置く。

雪子
…知っておいてもらった方がいいかと思って。

高梨、言葉を探すが思いつかない。

高梨
…。

雪子、返事を諦めてタブレットを取ろうとする。
が、高梨が先に手に取った。

高梨、改めて画面を見る。

雪子
…何か、言いたいことがあれば、今、聞きたい。

高梨、タブレットを静かに机の上に戻す。

戻して、しばらく黙り、そして窓の外を見た。

雪子 この町の人間は、困ると大仏様を見るふりをします。
高梨 …。

高梨、何か言わなきゃと必死で考えている。

雪子、改めてタブレットを取り、部屋から出ていこうとする。

高梨 大丈夫だから！

雪子 …。

高梨 いや、大丈夫とかじゃなくて、その、…嬉しいっていうか、…そう！、嬉しくて。親近感！親近感！

雪子 …は？

高梨 …僕ら、とてもよく似た乳首をしているのさ。

雪子 …、

雪子は秘かに感動している。

雪子 ……形の話？

高梨 形だって色だって。……形だって色だって！

雪子 …初めてのタイプの、慰め方だよ。

高梨 結婚してください。
雪子 …（なぜか浮かない顔で見返している）。

部屋の中、暗転。

同時に部屋の外に鶴子が現れる。

外は夜である。

鶴子 …。

遅れて幸子と貞之助が現れる。

幸子、安い保冷バッグを渡して、

幸子 保冷剤入れてないから。帰ったらすぐ冷凍庫入れて。

鶴子 うん。何時？

貞之助 9時半です。

鶴子 バスまだあるんだっけ？

幸子 タクシー乗ったら。

鶴子 …え、なんで？

幸子 え？、疲れてそうだから。

鶴子 疲れてるだけでタクシーなんか乗らないよ。

幸子 ……泊まる？。っていうか、お姉ちゃんもウチきたら。

貞之助 ……（来られても困る）。

幸子 ……（心にもないことをつい言った）。

鶴子 本当にそういうことになるかも。

貞之助 まあそうならないことが一番ですよ。

幸子 ……夫婦喧嘩するほど仲がいいみたいなさ、

鶴子 夫婦なのかねえ…、今のあれは。

幸子・貞之助 ……。

鶴子 あのウチ、出ていくなら私の方だよ。悪いのは私だから。

幸子 別にお姉ちゃんのせいじゃないでしょ。

鶴子 雪子と入れ替わりなら気も楽だけど。

幸子 そんなに急に結婚まではいかないだろうし、

貞之助 いったとしても住むのはここでしょうし。

鶴子 家賃払うなら積み立てか。

幸子 ま、あえて無理して来ることないよ？、狭いし。…でも万が一の時は遠慮

なく。

鶴子 万が一の時は。じゃあね。

鶴子、去っていく。

幸子・貞之助 …。

部屋の中に明かりが入る。

雪子が浮かかない顔して、スナック菓子をつまみに発泡酒を飲んでいる。
風呂上がりの妙子が入ってきて、

雪子 …。

妙子 帰った？

雪子 うん。…どっち？

妙子 え？、…ああ、お姉ちゃん。

雪子 帰った。

妙子 （雪子の発泡酒を一口飲んで）え、和夫君まだいるの？

雪子 帰ったけど。

妙子 なんだって？

雪子 さあ。

妙子、背中を丸めて足の爪を切り始める。

パチン、パチンという音が響く。

時折、畳の上に飛んだ爪を拾い、机の上にまとめて置く。

雪子は机の上の缶からタバコを出して吸い始める。

たまに爪が自分の方に飛んできて、顔をしかめる。

妙子 (なぐさめようと) …私、好きなんだよね、あの画像。

雪子 …あそう。

妙子 綺麗じゃない。名カメラマンだよ。

雪子 …？

妙子 ま、またいい人、出てくるでしょ。やつぱり今時、お見合いするのもどう

かと思うよ。かしこまってさ、こういう事情があるんですって言うよりも、

普通に恋愛してる流れで笑い話みたいに言う方が相手も納得するんじゃないか？

雪子 結婚したいってさ。

妙子 …って言ったの？

雪子 うん。

妙子 和夫君から？

雪子 うん。

妙子 キ姉ちゃんに？

雪子 うん。

妙子 ……変態じゃねえか。

雪子 おい。

妙子 ……変態でも愛があるならいいか。

雪子 変態じゃないよ。知らないけど。

妙子 え、じゃあなんでそんな顔してんの？

と、幸子が入ってくる。

幸子 ……アンケート書いた？

妙子 まだ。

雪子 まだ。

幸子 明日、持ってくるから。

妙子 ね、図書券は？

幸子 (爪を切っているのを見て) なんか敷いて。図書券って？

妙子 アンケート答えた人には本当は図書券あげてるんでしょ？

幸子 (雪子の発泡酒を一口飲む) あげてるよ。

妙子 1回ももらったことないよ。

幸子 あんた、本なんか読まないでしょ。

幸子、タバコに火を付けて吸い始める。

妙子と雪子、幸子の前で話の続きをしたものか迷う。

雪子・妙子 …。

幸子 (なんとなく察して) なに？

妙子 …。

雪子 …変態なんだって。高梨さんが。

幸子 和夫君が？

妙子 違う。私が言いたいののは、和夫君はキ姉ちゃんにベタ惚れなんだねってこと。
と。

雪子 そんなこと言わなかったでしょ。

妙子 いや、好き過ぎてみんなに見てもらいたいみたいなの、そういう感じでしょう？

雪子 違うよ。

幸子 別に和夫君が見せたわけじゃないんだから。

妙子 そっか。え、じゃあじゃあ、最初にあの画像をバラ撒いたアイツは？、あれこそキ姉ちゃんのこと好き過ぎただけかも！

雪子 …よく喋るなあ。

妙子 好きじゃなきゃあんなに綺麗に撮れないよ！。キ姉ちゃんも好きな人の前
にいる時の顔して映ってたよ。：顔とアソコが映ってたよ。
幸子 汚い話やめて…、
妙子 汚くないよ、キ姉ちゃんのアソコだよ？
雪子 …。

雪子、出ていこうとする。

幸子 ちよいちよいちよい、で、どうすんの？
雪子 はあ？
幸子 いや、結婚。するの？
雪子 …さあ。
妙子 なんて？
雪子 …。
妙子 気にしすぎだよ。
雪子 気にしてない。
幸子 (咎めて) 妙ちゃん。
妙子 はいはい、ごめんなさい。
雪子 気にしてないよ。

幸子 わかった。まあゆっくり考えて。

雪子 気にしてないから。

幸子 うん。わかったから。

雪子 …。

幸子 おやすみ。

雪子 思ったより誰も見てないし。

幸子 …え？

雪子 あれだけ恥ずかしいものをさ、意外と誰も見てないよね。知らないんだよ。

幸子 …そうだよ。そう言ってきたじゃん。だから気にしないでいいんだよ。

雪子 …ただ、恥ずかしいものだけじゃないよね、それって。

幸子 …？

雪子 これだけはもうどうしても見て欲しい、知って欲しいってことも、きつと

あっけなく無視されるよ。

幸子 …なに？そんなものあるの？

雪子 私は別にないんだけど。

妙子 なんだよ。

雪子 そういう人がいたとして。その人の気持ちを考えるとなんだかへもこしい。

へもこしくなる。

幸子 ……？、…へもこしい？

雪子 自分の気持ちをうまく言い表す言葉が見つからなかったから、新しく作って見たよ。私、最近、なんだかへもこしいのです。

幸子・妙子 …。

居間、暗転。

同時に外スペースが明るくなる。

国道6号と細い側道による交差点に立って、高梨が信号待ちをしている。トラックの行き交う音。

鶴子が現れて、同じく信号待ちをする。

鶴子、横にるのが高梨であることに気付く。

鶴子 …。

信号が青になったようだ。

牧歌的なメロディが流れ出す。

高梨は動かない。

鶴子 …青だよ？

高梨 …、… ああ、お久しぶりです。

鶴子、先に横断歩道を渡ろうとして振り返り、

鶴子 もしかして雪子のところ？

高梨 はい。

鶴子 …でも雪子は断ったって。

高梨 そう言ってました？

鶴子 聞いてないの？

高梨 いえ、聞きました。直接。

鶴子 …申し訳ないけど、雪子が乗り気じゃないなら、そういうことにしてくれないかな。

高梨 …。

高梨 もう一度、お話をしたいなど。

鶴子 …あの件については聞いたんだよね？

高梨 はい。

鶴子 どう思ったの？

高梨 …。

鶴子 正直に。

高梨 …ずっと、僕は、雪子さんを、ずっと、

鶴子 「ずっと」って…、

高梨 いや、三ヶ月とかですけど、その間ずっと、僕にはもったいない人だっ
思っていたんです。それがああいう話を聞いて、少しほっとして。

鶴子 …？

高梨 雪子さんが、僕と釣り合う場所まで、下りてきた気がして。

鶴子 …。…そういうこと、いつも考えてるの？

高梨 すいません。

鶴子 別に怒ってない。

メロディが止んで、トラックの走行音がまた聞こえ出す。

鶴子 …赤になっちゃった。

高梨 先、行きます！

高梨、急に走って横断歩道を渡る。

鶴子 ちよっと！？

トラックのクラクションが通り過ぎていく。
高梨、そのまま道路を渡って走り去る。
すれ違うように横断歩道の向こうに貞之助が現れる。
貞之助、下を向いて歩いていて高梨に気付かない。国道はトラックが頻
繁に通りすぎ、鶴子の声も届かない。

鶴子

…あ、ねえ！、…貞之助さん！、それ！

鶴子、「高梨を追いかけて」と身振りで示すが、貞之助は気付かない。
そのうち、というかすぐに鶴子も「別に追いかけてどうする」と思い、
ただ信号が変わるのを待つ。

35

国道を挟んで立つ鶴子と貞之助。

一人の時の貞之助の顔は冷たく暗い。

トラックの通過が途絶えた。

貞之助

…。

貞之助が誰かの視線に気がついたように顔をあげる。

鶴子、会釈する。
だがそれは鶴子ではなかった。

鶴子
…？

鶴子が貞之助の視線を追うと大仏が立っていた。
遠くにヘリコプターの音。

鶴子
…大仏の掃除って初めてみた。

と言った時にはもう鶴子が立っている場所は、幸子の家の庭先である。
部屋の中には雪子と妙子。そして高梨がいる。

一方の貞之助は信号が青になったのか、横断歩道を渡っていく。

妙子
掃除？

鶴子、部屋の中へと上がりながら、

鶴子　ヘリコプターで上から水かけてたよ。

妙子　豪快だね。

鶴子　：幸子は？

妙子　コーヒー。

と妙子が言ったのと同様に幸子がお盆にコーヒーのペットボトルと牛乳パックを載せて現れる。

幸子　ごめんね、話中断して。

高梨　いえいえ。

幸子　で？

高梨　あ、ですから、

幸子　ミルクは？

高梨　：じゃあ少しだけ。

幸子　はい。

幸子、ペットボトルのコーヒーとパックの牛乳を順にコップに注ぐ。

幸子　（話を先に進めてという意味で）どうぞ。

高梨 …ですから、今はもちろん、これからも、少なくともあの画像のことで雪

子さんを裏切るようなことはないということですね、あれして欲しいなど。

妙子 (コーヒーと牛乳の割合を飲みながら調整する)

高梨 もちろん。僕を男として、好みじゃないなら、こんな話もあれなんですけど。

幸子 …たぶん、その、和夫君がどう言っても、結婚つてなれば親戚の人とかが、

高梨 わざわざ親族に伝えることじゃないと思いますよ。あ、それは別に隠した
いつて意味ではないですけど。

幸子 ま、とにかくいつかばれた時には、

高梨 その時は説明します。

幸子 それで理解してもらえなかったら？

高梨 僕は雪子さんの側に立ちます。信じてください。

間

幸子 …あんたも何か言いなさいよ。

雪子 え？

幸子 私、ちよっと信じるの得意じゃないから。

雪子 …でも説明はしたから。

高梨 …へもこしいから無理と言われても、

幸子 ま、とにかく、うちはいろいろあつて、結婚するなら和夫君もここに住んで生活費を入れてもらうことになるんだけど、そうになると2人だけの問題じゃないし、みんなが信頼できる人じゃないと困っちゃうっていうか、

雪子 そんな話いいよ。それが理由じゃないんだから。

高梨 …信頼できませんか。

幸子 うん、どうだろう。今の話は直接関係なかったから。

高梨 (雪子に) 信じてくださいよ。

雪子 …。

高梨 そりゃ裏切ることもあるでしょうけど。

一同、困惑の沈黙。

妙子 …え、あるの？

高梨 ですから信じてください。

幸子 でも今、

高梨 裏切られても信じてくださいよ。

雪子 …、…ん？

高梨 僕がいつか裏切っても信じ続けるくらい信じてくれれば僕があなたを裏

切ることはありませんのであなたは僕を支えに日々の暮らしを安穏と営むことが出来るのではないかと思うのですがどうでしょうか？（と言い終えて大きく息を吸う）。

雪子 …ちよつと今どつと言われたので、私に理解できたことは、人は、やはり、息を吸わないと生きていけないんだということだけです。

鶴子 そろそろほら時間…、

幸子 そうだね。妙ちゃん（と促す）。

妙子 …あー、うちらね、これからちよつと予定あるんで、今日はこの辺でね、今日はというか、ね？

高梨 …。

一同、促すように立ち上がるが、高梨は座ったままだ。

一同 …。

鶴子、妙子をつつく。

妙子 あ、玄関までお見送りします。

と、無理矢理高梨を立たせようとするが、

高梨 まだちよっと話をしたいんですけど、

雪子 …。

妙子 ごめんごめん、またにして。あ、メールにして。

妙子、高梨を立たせようとするが、しばし揉み合う。

高梨 離して…、

妙子 帰って。

高梨 乳首…！（と腕をふりほどく）

妙子 …は？

高梨 同じ乳首を持つもの同士じゃないですか！

音楽。

例えば rolling stones「I've Been Loving You Too Long」のような曲など。
高梨、シャツをめくって自分の乳首を見せる。

一同 …！

高梨 ……雪子さん。

雪子 しまってください。

高梨 しまいません。(乳首を指差し) よく見てください。

鶴子 しまつて。

高梨 僕の右乳首はあの日見たあなたの左乳首のようだ。

鶴子 しまいなさい。

高梨 僕はあれからいつもここにあなたがいるように思えて仕方がないのです。

雪子 ……。

鶴子 しまいなさい！

高梨 しまいません！、…雪子さんのも見せてください。

雪子 え？

と高梨、雪子にゆっくり近づいていく。

雪子 ……え？

高梨がそのまま雪子の服をめくろうとするので、一同、慌てて止めようと揉み合いになる。

高梨 違います！、…大丈夫です！、…同じなんですから！

一同で必死で羽交い締めにしてようやく高梨を捕まえた。

高梨 …あなたのそこにも僕がいるってことなんだ！
雪子 …。

再び雪子に掴みかかる高梨。

一同が揉み合う中、暗転していく。

音楽、乗り変わり、

幸子（N）「…それが、この春の出来事だった。それからしばらくすると、国道沿いを真新しいランドセルを背負って通う新一年生達の中から、今年も選ばれた1人が暴走トラックの餌食になり、交差点には色とりどりの花々やぬいぐるみやらが供えられ、微笑みを湛えたお地藏様が寄付される頃には、この町は次の季節になっていた…。」

夏の夜である。

風がなく。とても蒸し暑い。

居間にて。

畳の上に寝袋を敷き、しかし暑いからか中に入らず寝ている女の後ろ姿。即席に枕とした何かも見える。

それは寝観音のような鶴子である。

脇で幸子が扇風機に当たっている。

後にわかるが部屋の中には紐が横断しており、そこに軽薄な布がカーテン代わりに通してある。カーテンを閉じると、鶴子のプライベート空間になるのだ。

鶴子は現在、この家の居間で暮らしている。

幸子が発泡酒を飲みながら、枝豆を食べている。

ラジオから音楽が流れている。それは暗転中の音楽が引き続き流れているのかもしれない。

鶴子
(後ろを向いたまま) 止めて。

幸子 …うん。

幸子がラジオを指差すとなぜか音が消える。
鶴子はそれを見ていない。

鶴子 …大体歩いた。

幸子 ……え？

鶴子 この辺、もう大体、歩いたのね。

幸子 昼間は水持って出かけてね。

鶴子 でもまだ、…さつき、まだ一度も行ったことのない曲がり角があって、

幸子 凍らしてあるから。ペットボトル。

鶴子 うん。初めての曲がり角があって、曲がって、後で分かるんだけど外灯が
そこだけ切れてて、前を歩いてた人がふっと消えてちよつと先で、すつと現
れたの。びっくりして。

幸子 …。

鶴子 しばらくそこに立ってたら、また人が来て、消えて、現れて、それで、あ、
外灯が切れて真っ暗だからそうなって、一個先の電信柱の外灯のどこまで
行くとまた見えるんだってなって、ずつとしばらく見てたの。

幸子 携帯も持って行って。

鶴子 聞いている？

幸子 帰って来ないから心配したよ。今日。

鶴子 …。

幸子 聞いている？

鶴子 少しホツとしてね。

幸子 …は？

鶴子 もちろん私が見間違えただけなんだけど、少なくとも間違いや勘違いの世界では、人は突然消えることが出来るってわかってホツとしたの。

幸子 …よくわからないけど。

鶴子 わかるよ。

幸子 いや、わからないよ。思わせぶりに話すのやめて。ながらで聞いててもわかるように話して。あといい加減にして。

鶴子 …。

幸子 あの会社が潰れたのはお姉ちゃんのせいじゃないからね？

風呂上がりの妙子が襖を開けた。

どうかと思うような風呂上がり姿、夏バージョン。

鶴子が起きているのを見て、すぐ去ろうするので、

幸子 …… 妙ちゃん！。
妙子 おやすみなさい。
幸子 妙ちゃん！
妙子 なに？
幸子 来なさい。
妙子 寝るから。
幸子 なにしに来たの。
妙子 ……。

と、廊下を貞之助が通り過ぎる。
後ろから覗き込んで、

貞之助 行ってくる。
幸子 え？
貞之助 バイトに任せておけないだろ。
妙子 まだ捕まってないの？
貞之助 一番ひどい時で一晚に8枚割られたから。
妙子 やべえ、怖え。
貞之助 アース、ミュージック&エコロジーのガラスが8枚だよ。

妙子 え、アース、ミュージック&エコロジーなら私も割りたい。

幸子 ちゃんと武器とか持った？

貞之助 会社から至急されてる。

妙子 武器？

貞之助 うん。ホイッスル。

幸子 …大丈夫？

貞之助 大丈夫大丈夫。業務用のホイッスルだから。

幸子 大丈夫？

貞之助 いや、ちよつとどうかと思うほど、ピーって鳴るから。

幸子 ちゃんと残業代申請して？

貞之助 モチのロンよ。

幸子 稼ぎ時だよ。

貞之助 でももし今日犯人捕まえちゃえば、残業もなくなるからね？

幸子 じゃあまあ、持ちつ持たれつで。

貞之助 なんだよそれ。

貞之助、去っていく。

幸子 ペットボトル凍らせてあるから、持ってって。

貞之助（声） はい。

貞之助が行ってしまおうと、妙な沈黙。

いや妙な沈黙と一同が認識する直前に、鶴子が立ち上がり、カーテンを閉めながら、

鶴子 じゃあおやすみなさい。
幸子 あ、うん。

幸子、妙子に目配せして、窓を開けて外へ出て行く。

そこは2畳ほどのこの家の庭だ。

妙子 …なに？
幸子 あんたこそなによ逃げようとして。
妙子 いや、日に日に話が長くなるから。
幸子 …私ばつかに相手させないでよ。
妙子 …ま、なんだかんだで愛してたんだねえ。
幸子 は？
妙子 そういうことでしょ？、別れて傷ついて、頭がヤヤヤヤってなってんだよ。

幸子 それは関係ないでしょ。

妙子 ああ、クレームの方？

幸子 クレームって言わないで。

妙子 じゃあなに？

幸子 え、：すぐ忘れちゃうわ。：あ、コクハツ。コクハツだよ。

妙子 クレームでしょ。

幸子 聞こえるから。

妙子 いいことしたのにね。

幸子 いいことしたら旦那の会社がなくなったんだよ。真面目な社員さんだっ
いて、その社員さんに家族だっいて、とか考えちゃってんでしょ？

妙子 あ、うちもさ、あの旦那に頼んで、風呂場、リフォームしてもらったよね？、

あれは相場の金額だったの？

幸子 相場知らないから。

妙子 そうやってみんな騙されてたんだね。

幸子 とにかくあんたも話して。気分転換。

妙子 みんな後ろめたいこと抱えてんだから、バカ正直に悩まないでいいんだよ。

幸子 うん。それでいいから言っ来て。

妙子 私が言うともた別の意味になるから。

幸子 なんです。

妙子 私の後ろめたさと仲間だと思ったら、もっと落ち込むだけでしょ？

幸子 …。

妙子 お、黙っちゃった。

幸子 あんたはもう…、

妙子 「私の罪も賠償金5700万円分なの？」って言って泣くよ。

幸子 …もういい。

妙子 ウチで後ろめたくないのは中姉ちゃんだけなんだから、中姉ちゃんが言う
しかないんだよ。

幸子 （先程ラジオを指したように妙子を指さす）

妙子 …なに？

幸子 （さすのを止めて、はたく）

妙子 痛っ、なに！？

幸子、部屋の中に戻っていく。

どこからかホイッスルの音が聞こえてくる。

妙子 痛あーい！

妙子、幸子を追って部屋に戻る。

入れ替わりで、ホイッスルを手に、貞之助が現れる。
ガラスを割った男を追いかけているようだ。

舞台は夜のアウトレットモールの敷地内になる。

貞之助 待ってください！、止まってください！、（ホイッスルを吹く。うるさくて耳がキーンとする）…耳が、

近くで物音がする。

貞之助 …！、…（トランシーバーを出して）あ、バイト君？、今どこ？、こっち来れる？、東側の噴水のところ。…うん？、違う違う。あるでしょ、サマンサタバサとツモリチサトの間の（と話ながら、物音のした方に向かってホイッスルで威嚇）…耳が、…（トランシーバーに）ああごめんごめん、違う。いるんだよ、それでちよつと。…え？、…いや、ガラス割り魔に決まってるだろ！早く来いよ！、…え？、…ん？、…なんでパワハラなのよ、俺に、俺にどんなパワーがあると思っただけのこと言ってるの？、…な、（切れた）…おい！

貞之助、諦めてひとりで立ち向かおうとする。
改めて武器がホイッスルしかないことに不安になる。
ホイッスルを回してみる。
ひゅんひゅんと音がする。

貞之助

…（不安だが、勇気を振り絞る）ほらあ、出て来て下さい…、

貞之助、物陰とにらめっこ。

その間も笛を振り回し続ける。

笛はひゅんひゅんと音を鳴らし続ける。

その音色はナウシカの蟲笛のようでもある。

貞之助

…音色が、俺のまぶたを、重たくする…、

音楽。そして溶暗していく。

その時、貞之助は暗がりにはいたものの正体に気付き、表情を変える。

貞之助

…あ。

暗くなりきった瞬間に明転。

朝。

アウトレットモールの朝である。

すでに営業時間のようで人の気配や軽薄なラウンジ音楽。

そして貞之助の横に幸子、さらに雪子と高梨。

雪子はフードコートの的な食べ物を食べている。

幸子 それで朝までここで？

貞之助 (ホイッスルを一回しして) 肩、パンパンだよ。

高梨 大丈夫ですか。

貞之助 うん、いざとなると敬語になっちゃうな。

幸子 なにが。

貞之助 「待てこら！」とか言えないんだよ。犯人に対して、こう上から接しようという気持ちがあるんだよな。あれはなんだろうな。

幸子 (ビニール袋を渡して) 着替え。

貞之助 どちらかというと、犯罪を犯すに至った度胸っていうの？一線を越えた男への畏怖の念すらありありで「止まってください」って敬語だよ、参っちゃうね、俺も。

幸子 男だったの？

貞之助 え？

幸子 犯人。今、男って言ったけど。

貞之助 いや、わかんない。

幸子 逃げられたの？

貞之助 いや、それがさ、犯人じゃなかったんだよ。

幸子 どういうこと？

貞之助 (話したそうに) 聞きたい？

幸子 …… 先行ってていいよ。

雪子 いいよ、聞くよ。

貞之助 うん。いや、ここでね、こう暗闇の中、緊張感のある一対一のらみ合いが続いたわけよ。こういうのは経験上、先に動いた方が負けなのね。

高梨 あ、でも笛…、

貞之助 …… うん、笛は回してたよ。俺はだから、そこそこ動いてたよ。

一 同 ……。

貞之助 だからちよっと負けてたわけだな、その時点で俺は。でもそれ以上はもう誰も動かないよ。そのうち辺りが明るくなるだろ、相手の輪郭が次第にはつきりしてきて、なるほどそうか、俺が一晩中にらみあっていたのは大仏様だったのかとわかるわけだ。

幸子 え？

貞之助 ほら、この角度。（と指す方向に大仏が見える）

幸子 大仏？

貞之助 うん。

幸子 高さがもう人間じゃないじゃない。

貞之助 夜だもん。屋根の上に誰か隠れてると思うだろう。

一同 …。

貞之助 聞かれたから答えたんだぞ（とパンフを渡す）。

雪子 なに？

貞之助 印がついてる店が防犯カメラ故障中だから。

高梨 …？

雪子 新婚祝いだって。

貞之助 （ウインク）

高梨 …え？

雪子 （パンフ見て）テンピュールの枕欲しかったんだよね。

幸子 行っといで。

雪子 （目で合図）

高梨 あ、うん。

幸子 捕まらないで。

貞之助 ほどほどにな。

雪子、高梨、アウトレットの奥へと消えていく。

幸子 ……今日も残業？

貞之助 残業代が増えすぎて経理に怒られたよ。

幸子 最近、雪子があんまり積み立てしないから。

貞之助 和夫君から取れよ。

幸子 もちろん若旦那からも取ってるけど。お姉ちゃん、働かなくなっちゃったし。

貞之助 ま、頑張れるだけ頑張るけど。

幸子 うん。

貞之助 悪いやつがいると俺の存在意義も高まるからな。ここしばらくチヤホヤされて楽しいよ。

幸子 じゃあ私もこっそり割りに来ようか？

貞之助 それいいな。(トランシーバーに出て) はい。…万引き？、…枕2つ？、

…うん。…あ、俺に任せろ。うん。いいからいいから。うん。(切って) いくわ。

幸子 うん。

アウトレット、暗転。

と、同時に部屋のエリアが明るくなる。

部屋の中には鶴子。廊下に妙子がいる。

妙子は掃除をしている。

鶴子は夏っぽいものを食べている。

鶴子　：妙ちゃんもこの部屋で寝ればいいのに。

妙子　：（手伝って欲しい）ねえ、私も仕事行かないとただけど。

鶴子　新婚さんと同じ部屋でよく寝れるね。

妙子　（諦めて）：そっちまで飛んでるかも　しれないから食べないで。

どうやら廊下のガラスが割れ、破片が散らばっているようだ。

鶴子、立ち上がったてなにかを探し始める。

妙子　：だから動かないで！。なに？

鶴子　あ、蚊取り線香。

妙子　後にして。（ガラスを踏んだ）：痛っ、

鶴子　大丈夫？

「ただいま」と声がして幸子、雪子、高梨、帰ってくる。手に枕。

幸子 なに？

妙子 ああこっちこないで。危ない。

幸子 ガラス？

妙子 割られてたの。

幸子 え？

妙子 そこにガムテープあるから手伝って。

高梨 あ、はい。

高梨、床のガラスをテープで取り始める。

幸子 なに、割られてたって。

妙子 知らないよ。(高梨に) ちよつと若旦那！

高梨 はい。

妙子 優しくやらないとフローリングが剥がれるでしょ？

高梨 すいません。

一同、破片を拾う。鶴子は見ているだけである。

妙子 ガラスっていくらするの？

幸子 知らない。誰が割ったの？

妙子 知らない。割れてたの。

高梨 あ、なにか貼っておきますか。虫入って来ないように。

幸子 (驚いて) やれんの？

高梨 やれますよ、それくらい。

高梨、部屋の中を見回して、貼れるようなものを探し始める。

幸子 臨時出費勘弁してよ。

妙子 気が付いた時には割れてた。

鶴子 でもかなり大きな音がしたよ。

幸子 …この部屋にいたの？

鶴子 うん。

幸子 うんじゃなくてさ、

高梨、ピザのチラシを手に、

高梨 すいません、これ、使っていていいですか？
幸子 うん。その店、高いからいららない。
妙子 あ、今日、ピザ食べたい。
幸子 暑い日にピザなんか食わないよ。
雪子 ピザ味のポテトチップス食べたい。

と一同が掃除をしている間、ずっと鶴子が喋っている。

鶴子 あ、こないだ来たピザ屋の店員がさ、雨の日でカップを着てて。もうすごい水はじいてるの、そのカップが。全身にイボをまとってございます！っていうくらい水が玉になってるのね。で、それどこのですかって聞いて、島忠のオリジナルブランドだって言うから、すぐに私も買ってきたんだけど、袋に「みなさまのご意見を参考に作りました」って書いてあって、でもそれってつまりはありとあらゆる労働者とやることないから庭いじりは一生の趣味だって必死に自分に思い込ませてる定年退職者の苦情に配慮しまくった結果のカップってことだから嫌んなっちゃった。カップにはいつも雨のことだけ考えていて欲しいし、私達はそういう風に誰かが誰かのことだけ思っているような時間を邪魔するようなことをしてはいけないのだと思う。

一同 …。

一同、思ってる以上に鶴子がおかしくなってるんじゃないかと少しぞつとしていたが、誰も何も言い出さない。

高梨 （チラシの束の中に何かを見つけて） … すいません、これ。

幸子 だからいららないよ。貼るなら貼って。

高梨 じゃなくて、これ。

と高梨がチラシの束の中から、一枚の紙を掲げた。

一瞬の暗転。

というか現れた貞之助だけがサスの中に。

貞之助 え？、… 脅迫文？

すぐにまた居間が明転した時には、数時間後で、雪子・妙子・高梨の姿はなく、部屋の中には幸子と鶴子がいる。

幸子 たぶん元々ポストに入ってたんだと思うんだけど、

幸子、先程高梨が掲げた紙を貞之助に渡す。

貞之助 (読んで) えー…、たかし君が守るべきは…、

鶴子 キクン。

貞之助 え？

鶴子 たかしくんって書いてキクンって読むの。

貞之助 …「貴君の守るべきは部外者の作った商業施設にあらず」。…なんだこれ。

幸子 それ書いた人が窓割ったんでしょ。

貞之助 …達筆だな。

幸子 うん。

貞之助 毛筆だな。

幸子 どう考えてもじいさんばあさんだよ。商店街の。

貞之助 で、キクンって誰だ？

幸子 あんたのことでしょ。

貞之助 俺は貞之助君だぞ。

幸子 あんたのことなの。

貞之助 へえ。…しかし、なんでウチが、

幸子 アウトレット出来た時に商店街で反対してる人達いなかった？

貞之助 ああ…、え、じゃあ店のガラス割ればいいのに。

幸子 割ってたんでしょ。それだけじゃ埒があかないって思ったんじゃないの？

貞之助 俺、雇われてるだけだぞ？

幸子 知らないよ。

貞之助 …え、なんだろ、すげえ面倒臭いな。

幸子 ね。

貞之助 社長の家、教えてやれば、そっち行くかな。

幸子 ああそうだね。

貞之助 住所知らないけどな。

幸子 聞きなよ。

貞之助 社長に？、社長なんか会ったことないよ。誰だよ、社長。

一同、笑う。

と、何かが家にぶつかる音。

鶴子 なに？

寝巻き姿の高梨と雪子がやってくる。雪子の手には晩酌のつまみ。

幸子 また割れた？

高梨 いえ、あっちの壁に穴が開きました。

貞之助 …えー？

鶴子 ポスト、見てくる。

幸子 なんで？

鶴子、返事をせずに出ていく。

雪子 大丈夫？まだウロウロしてんじやないの、犯人。

幸子 …心配ならあんたが見に行きなさいよ。

雪子 …。

高梨 行こうか。

雪子 うん。

高梨と雪子、鶴子を追いかけて出て行く。

幸子 …どんなセックスしてんだろ。

貞之助 は？

幸子 私、どんなセックスしてるか想像つかない人ってなんか怖いんだよね。

貞之助 …。

幸子 昆虫みたいに思えてくる。

貞之助 今度聞いてみるよ。若旦那の方に。

雪子 (叫び声)

幸子 …なに？

幸子、慌てて外へ出ようとする。

貞之助、幸子の腕を掴んで、

貞之助 早い早い。

幸子 なにが？

貞之助 すぐ駆けつけると犯人と鉢合わせるから。しばらく待ってから、助けに行く。

幸子 …は？、

貞之助 警備員の知恵だぜ。

妙子が現れて、

妙子 なに？

幸子 一緒に来て。

幸子、走って出て行く。

貞之助 …。

一瞬の暗転。とはいえ音楽が流れるかもしれない。

すぐに明るくなると、部屋の中には頭に包帯をした鶴子。

鶴子、手紙を書きながら、スナック菓子を割り箸で食べている。

鶴子 …、

しばらくして別のエリアに雪子が現れる。

雪子、キャディ姿である。

そこは雪子がパートで働くゴルフ場である。

なぜか高梨がいる。

雪子 …家で話せばいいじゃん。

高 梨 話す場所ないかなって思っ

雪 子 …もう、（と高梨にスプレーを吹きかける）

高 梨 なに！？

雪 子 アブいるから。肩だしてたら吸われるよ。

高 梨 吸うの？刺すんでしょ？

雪 子 アブは吸うの。知らないの？

高 梨 ……へえ。

雪 子 なに？

高 梨 いや、鶴子さん、あれでいいのかなって。

鶴子、手紙を書き終え、部屋を出て行く。

雪 子 昔からいろいろ不安定だから。

高 梨 （名札を見て）…名字。

雪 子 ……

高 梨 え？なに？読めない、しずむ…、チン？

雪 子 シム・ソヨン。

高 梨 え、雪ちゃん、韓国の人だったの。

雪 子 …オーナーが韓流ドラマのファンで、強要されてんの。

高梨 ふーん。

雪子 …。

高梨 で、ソヨンさんは、鶴子さんが脅迫文に返事書いてるの見た？

雪子 うん。

高梨 返事書いて、また脅迫されて、また返事書いて、あれ、もう文通だよ、文通。

雪子 昭和の人だから。

高梨 相手、誰だかわかってんの？

雪子 だからガラス割りに来てる人でしょ？

高梨 知ってたんだ。

鶴子がまた部屋に戻ってくる。

新しい手紙を手を持っている。

手紙を開け、読み出す。

高梨 …そっか、え、うーん、よその家族のことはどう首突っ込んでいいのか。

雪子 (あなたも) 家族でしょ。

高梨 …。

鶴子、手紙に大きくうなずいたり、赤線を引いたりしている。

雪子 夢中になってるからいいんじゃない？、おかげで元気出てきたというか。

高梨 …え？

雪子 お姉ちゃん。

高梨 あ、うん。そうだね。…そうだよね。

部屋エリアに幸子が現れた。

幸子、お盆に昭和風なかき氷器と器を2つ。

幸子と鶴子の会話が始めると、ゴルフ場は溶暗していく。

幸子 …。

鶴子 なに？

幸子 歯ブラシ買ってきたの、お姉ちゃん？

鶴子 安売りしてたから。

幸子 農協のこの朝市？

鶴子 そう。100本入りで迷ったけど。みんなが使えばね？、死ぬまでに10

0本はいくでしょ。

幸子 いくかな。

鶴子 いかない？いくよね？
幸子 それはいいんだけど、あれさ、どこのメーカーか知ってて買った？
鶴子 …メーカー？
幸子 あれ、ラブホにおいてあるやつだから。

幸子、かき氷を作りだす。

鶴子 …？、…ああ。
幸子 いいんだけど。なんか嫌だなって。いいんだけどね。
鶴子 ごめん。
幸子 いいんだけど。
鶴子 あんた、まだラブホテルなんか行ってるの？
幸子 行くけど一人だよ。
鶴子 …。
幸子 たまに一人でゆっくり寝たいでしょ。うち、狭いから。
鶴子 ごめんね。
幸子 …？、そういう意味じゃないけど。

鶴子、手紙を持ってカーテンの奥へ。

幸子　：お姉ちゃん。

鶴子　ん？

幸子　隠し事はちゃんと隠してくれる？

鶴子　え？

幸子　こっちも気使うんだけど。

鶴子　別に隠してないよ。

幸子　じゃあやめて。

鶴子　なにを？

幸子　（手紙を）見せて。

鶴子　嫌。

幸子　じゃあやめて。

鶴子　…、

幸子　人ん家のガラス割って、壁に穴開けて、お姉ちゃんの頭まで割った人とうして文通できるのよ。

鶴子　でも、こっちとしても反省文は出さなきゃいけないから。

幸子　やめなよそんなの。…反省文？

鶴子　反省して、改善できるところは改善して。

幸子　…何の話？

鶴子 勉強不足だったのは確かなんだから。

幸子 …は？（と言いながらガリガリ氷を削る）

鶴子 やっぱりのアウトレットは問題なんだから。雇用が増えたって言っても

アルバイトしか雇ってないし。

幸子 …（ガリガリ）。

鶴子 あとあそこに入ってるブランドの半分が発展途上国に工場があつて不当に安い賃金で働かせてるって。

幸子 …（ガリガリ）。

鶴子 それからアウトレット単体では赤字にしてるから、親会社は儲けてるのに大した税金をこの町に収めてないの。誘致は町ぐるみで、町の税金を使って作ったのに。

幸子 なに、もうすごい気持ち悪い。変なこと言い出さないで。

幸子、2人分のかき氷を作りあげ、適宜食べ出す。

鶴子 書いてあるから。

幸子 書いてあるからって真に受けなくてよ。

鶴子 知らなかったでしょ？知らないからって許されないんだって。

幸子 それも書いてあった？

鶴子 毎日来るの。読んでみる？

幸子 脅迫文なんて読みたくないよ。

鶴子 真面目な脅迫だけじゃないの。「俳句コーナー」とかもあるから。

幸子 …え？

鶴子 今日のはね、「おろしたての喪服で一服」

幸子 ……自由律??。

鶴子 いや、お葬式で悲しまなきゃいけないのに、喪服を新調したばかりでちよつとだけ浮かれた気持ちになってる自分を諫めよう、諫めようってタバコを吸ってるのね。…行間。

幸子 …。

鶴子 あと、たばこの煙と火葬場の煙突の煙が…、…行間。

幸子 …（覗き込んで）四コマ漫画までついてるじゃん。

鶴子 これで月、たったの2千円。

幸子 金取るの!? この脅迫文!

と、隣りの部屋でガラスの割れる音。

幸子 …また、

鶴子 お金っていうか、だから、この人達を応援するための援助金みたいなこと

で、

幸子 援助した金でうちのガラス割りに来てるんだよ？！

鶴子 …それは貞之助さんが悪の側についてるから、

幸子 関係ない！、…悪の側？

鶴子 ウチのガラス割るのも、世の中を正しくする一歩だから。

幸子 ほんとうにそう思ってるの？

鶴子 まあ、なかなかそうは思えないんだけど、でもそれは私が勉強不足なだけで、

幸子 懲りたんじゃないの？、そういう正義感みたいの。

鶴子 …。

幸子 いやもちろんあれは、お姉ちゃんが悪くないよ。ただ、それでちよつと疲れちよつたんでしょ？、なのになんでわざわざ…、

鶴子 やっぱり私のせいだね。

幸子 そうじゃなくて…、

鶴子 自分のしたことに責任持つ意味でも、これからは正しいってことから逃げちやダメな気がしてるのよ。

幸子 ちよつと待って、

かき氷でこめかみがキーンとしてる。

幸子 ……そもそもさつきみたいな話って、週刊誌で、グラビア写真の隣りに書いてある話でしょ？、あれ、ホントに見たいのはおっぱいだけど、そればかり見ても罪悪感が湧いてきちゃうからってバランスとるために載ってるんだよ？

鶴子 なんのバランスよ。

幸子 正しい意見を取り入れると、汚い自分が浄化された気になるってこと。でもそんなの、自分が汚くて、後ろめたくてたまらないってやつがすればいいことだから！

鶴子 ……

幸子 そんなささいな正義感なんて持たないでも堂々と生きてよ、お姉ちゃん！

天井を突き破って石が飛んでくる。

幸子 ……ちよつと、（外に）穴開いた！、天井！

鶴子 ……え、結局、私、おっぱいが見たかっただけってこと？

幸子 正直どうなの？

鶴子 別に見たくないんだけど。

幸子 じゃあもう文通やめて。

またどこかの部屋でガラスの割れる音。
もう幸子は諦めたのか気にしない。

鶴子　：待って、見たい人、一人いた。

幸子　：誰？

鶴子　野茂英雄。

幸子　：は？

鶴子　野茂のおっばい、見てみたい。

幸子　：野茂のを見るならお尻でしょ！？

鶴子　お尻もいいけど。引退後にちよつと太っちゃった系のスポーツ選手のおっばいがみたい。

幸子　じゃあ野茂のおっばいを見たいという罪悪感の分だけ、正義感を持ってばい
いよ。それは許す。

鶴子　うん。：うん？、それってどれくらい？

幸子　歩き煙草を注意するとか？、：知らないよ。

鶴子　両手に：、野茂のおっばい分だけの正義：。

幸子　両手かどうかは知らないけど。

鶴子　でも、野茂のおっばい見たいって思うのって、そんなに悪いこと？

幸子 もういいよ。

鶴子 私、野茂のおっばいみてないのに罪悪感でいっぱいだよ。

幸子 (どうでもよくなってきて) おっばいがいっぱい。

鶴子 …私、ちゃんといいことしたい。

ガラスは割れ続けている。

幸子 じゃあまずこれ(ガラス割り)止めさせて!

鶴子 …だからこれは世直しのいっかんで、

幸子 あのさあ!、世の中が正しくなったとして、その世の中にふさわしいほど私達、正しくなれないからね?

鶴子 …。

幸子 わかった?

鶴子 …わかった、ごめん。

鶴子、走って部屋を出て行く。

妙子 …ちよつと、…お姉ちゃん?

妙子、慌てて追いかける。

居間の明かりは消え、舞台は国道になる。

相変わらずの交通量。

そこへ雪子と高梨がゴルフ場から帰ってくる。

信号を待つ2人。

雪子 人生でかなりの時間を、ここでの信号待ちに使ってる気がするよ。

高梨 …ね。

雪子 うん？

高梨 届け出だしてみない？。そろそろ。正式に。

雪子 …。

横断歩道の反対側に鶴子が現れた。

雪子 …お姉ちゃんだ。

鶴子、猛スピードで走り抜ける車を数台、目で見送った。

雪子 なにしてんだろ？

鶴子、意を決して国道に飛び出した！

雪子 やだ！

と遅れて幸子が現れ、

幸子 お姉ちゃん！

と、幸子、鶴子を指差す！

音楽。例えば沢田研二「時の過ぎゆくままに」のような曲。
一同、スローモーション。

鶴子、肩を押されたかのように半転して、元来た方へ。

目をつぶっていてそんな自分に気付いていない。

幸子は勢いのついたまま国道に飛び出す。

鶴子 (自分が歩道にいるのに気付いて) …あれ？

ブレーキ音。

音楽カットチェンジで乗り変わる。

例えば八つ墓村「八つ墓村の系譜を追って」のような。

幸子がトラックにはね飛ばされる。

幸子は舞台奥へと宙を飛んでいく。

幸子 ゆっくりと縦回転しながら、私は私の住む町を見た。オウム色に育った稲

を見た。遠くに逆さまの大仏を見た。私を跳ねたトラックの砕けたフロントガラスが降るのを見た。

砕けたフロントガラスが降っている。

幸子 …私は誰にも秘密の得意技で、姉を救ってみせたのだ。今、私は回転する

正しさの塊だ。そんな私の身体から遠心力で剥がれた善意がこの町中に飛んでいく。その放物線は束の間の暮らしを束の間、肯定するだろう。問題は、私がこの時、とてつもなくへもこしかったということだ。

降ってくるガラスが紅葉した葉に変わる。

幸子 これですら後悔するぞ。そこまで姉が大事じゃない。自分の善意の上限を、思い知った私ときたら、季節が秋に代わってずいぶん怪我が癒えてきても、へもこしさにまとわりつかれたままだった。

暗転。

庭で、貞之助と高梨が会話している。

貞之助 軽井沢？

高梨 軽井沢とか、軽井沢みたいな、京都とか、

貞之助 軽井沢みたいな京都？

高梨 違って、だから、観光地ってことです。観光地にあって、なぜかその観光地と関係ない油絵とかお椀とかを売ってる、ギャラリー兼お店みたいなところあるじゃないですか。

貞之助 好きだよ、俺、そういう店。大体、俺みたいのが入るとマダムが嫌な顔す

るんだよな。お呼びじゃないって。で、ブローチなんか手に取ってさ、「これはなんですか?」「メノウのカメオブローチです」「ああブルボンのアルフォートかと思いました」なんて言うのと、さらに嫌な顔してブスになるよ。いくつになってもブスって面白いよな?、うんこ、ちんこ、おしっこ、ブスだよ。

高 梨 (ひどい発言は触れずに) そういう店の店主になりたいって。

貞之助 ……鶴子さんが?

高 梨 はい。

貞之助 軽井沢で?

高 梨 この町じゃないですか?

貞之助 ……元気になったと思ったら。

高 梨 ……僕んとこの店も紹介したんですけど、ノリが合わなかったみたいで。

貞之助 ノリが合わないだあ?

高 梨 ……そう言っていました。

貞之助 ま、自分で使える金じゃないからな。

高 梨 ……え?

貞之助 うん。

高 梨 あれ。なんか、こう、気分転換も兼ねて仕事してもらってことじゃないんですか?

貞之助 金必要なんだよ。

高 梨 ああ…、はい。

貞之助 必要なのは妙子ちゃんだけだな。

高 梨 あの積み立て金って、妙子さんの借金のためのお金だったんですか？

貞之助 あれ、あんまり雪子ちゃんとうまくいってない？

高 梨 …。…え？

貞之助 そんな大事なことも聞かされないままで。

高 梨 …僕のお金も妙子さんの借金に？

貞之助 借金っていうか賠償金な。ずっと払ってなかったけど。

高 梨 賠償金。

貞之助 …払わなくてもいいらしいから無視してたけどいつか払うことになるん

じゃないかと思って積み立ててたらやっぱり支払い命令が来て今払おうと
しているという賠償金。

高 梨 …はあ、

貞之助 民事で負けて、5700万。

居間、暗転。

舞台は別エリアの千円カットの店になる。

鶴子が箒で髪の毛を掃いている。

鶴子 …。

そこへ制服姿の妙子がコンビニ袋片手に入ってくる。
もう片方の手で総菜パンを食べている。

妙子 いいよ、掃除なんかしなくて。

鶴子 あ、ひまだったから。

妙子 お客さん来なかった？

鶴子 うん。

妙子 せっかくだから切ってく？、髪。

鶴子 私に切らせてくれない？

妙子 えー…、

鶴子 昔は私がみんなの頭、切ってたんだよ。

妙子 昔はね。

鶴子 私、代わりに働こうかな。

妙子 まあやる気が出てきたのはいいいことです。

鶴子 大変？

妙子 たまに吸い込まれそうなたつむじを持ってる人がいて、そういうのは大変。

ハサミで突き刺したくなるから。

鶴子 わかる気がする。

妙子 冗談だよ。わからないで。

鶴子 でも私、好き、つむじ。

妙子 え、うん。

鶴子 意味ないでしょ？つむじ。世の中のほとんどが、意味のあるものと、一見意味がなさそうでちゃんと意味があるものに分かれるけど、つむじって本当に意味ないでしょ？

妙子 ないよ。

鶴子 みんながみんな、頭に意味のないもの乗つけて歩いていると思うとね、少し気が楽になるよ。

妙子 気が楽になることが一番だよ、今のお姉ちゃんは。

鶴子 …うーん、うん。

妙子 …8年かあ。

鶴子 残念？

妙子 最初はちゃんとした美容院だったんだよ？どんどん安くなってさ、今じゃ千円カットだよ。

鶴子 …。

妙子 まあお給料まで差し押さえるってんなら、働いてても仕方ないからね。

鶴子 …。

別エリアで雪子が座っている。
そこは安い居酒屋である。

雪子 ？

妙子 いつのまにか帰ってた。

妙子、居酒屋エリアへ。

鶴子は去っていく。

居酒屋のテーブルにはつまみ。

雪子 なにしに来たの？、気まぐれ？

妙子 ま、変なことに熱中するより、気まぐれにふらふらしてくれての方が助かるよ。

雪子 まあね。

妙子 すいませーん、ホッピーください！

店員は出て来ない。

妙子 ただなんか私がケアする番みたいになってるから。番なら番でもいいけど、次、キ姉ちゃんの番ね。

妙子、つまみに手を伸ばす。

雪子 ちよつと食べないで。
妙子 いいでしょ（と手を伸ばす）
雪子 自分の分は自分で注文して。
妙子 自分でも頼むけど（手を伸ばす）
雪子 いやいやいや（と器ごと逃げる）
妙子 あの、この年で食べ物を取り合いとかしたくないんだけど。
雪子 私だってそうだよ。
妙子 （器をはたき落とす）
雪子 ……なに！？
妙子 くないならいらぬし、食べれないなら食べ物じゃない。
雪子 ……私のお金で買ったから。
妙子 ケチな話を言いなさんな。
雪子 今月からあんたに3万払ってんの。先月までと一万上がった。

妙子 まだそれやってたんだ。

雪子 は？

妙子（店員に）すいません、これ！、こぼしちやっただんですけど！

が、店員は来ない。

妙子 誰も来ない。

妙子、自分で片付け始める。

雪子 え、なにそれ。

妙子 私、頼んでないから。

雪子 そんなこと言って10年ごまかしてたらこの様でしょう？

妙子 12年。

雪子 何年でもいい。

妙子 どうせ払わないんだから、気を使わなくていいよ。

雪子 だからそういう問題じゃなくなってるでしょ？、差し押さえだよ？

妙子 私の財産がね。

雪子 それも次また別の判決でたらどうなるかわからないでしょ？、妙子がよく

ても、みんなに迷惑かかってんの。

妙子 みんなってあんたも入ってんの？

雪子 え？

妙子 キ姉ちゃんも入ってんのかっての。

雪子 …え、なんだろ、は？、ちよつと何が言いたいのか、

妙子 わかんない？

雪子 わかるからムカついてんだけど。

妙子 お互い様でしょ？

雪子 お互い様じゃないよ？、…私は人に勝手にやられたことで、あんたは、

妙子 おおすげえな、それ言うか。その先、言うか。言わないでも伝わったけど、

はつきり口にするか。

雪子 信じてはいるけど。

妙子 …何言ってるの、判決はクロだよ。

雪子 …なにその開き直り。

妙子 キ姉ちゃんももつと開き直ったら。

雪子 は？

妙子 知ってるよ、未だに本名隠して仕事してんでしょ？

雪子 …はあ？

妙子 キヤデーの名前なんか、いちいちググる人いないよ。ググっても、あん

なよがった顔してんだもん、キ姉ちゃんってわかる人いないよ。

雪子 …… あんたがそうしてキレてもさ、こっちは同じテンションで言いたいこと言えないからね。

妙子 は？

雪子 あれからもうずっとそうだからね。こっちはいつでもたった一言であんたとの喧嘩を終わらせることが出来るんだよ。で、言わないの。誰か言った？ この10年で、

妙子 12年。

雪子 あんたの…、事實はどうであれ、あんたの受けた判決について、あんたが裁判官に言われた言葉を、私達が言ったことある？

妙子 若旦那が可哀想だよ。本当はいまだに若旦那じゃないじゃん。

雪子 …… 今、関係なくない？

妙子 いつ籍入れるの？。そういうのこそ迷惑なの。

雪子 なにも迷惑じゃないよ。

妙子 気を使うんだよ。まだなんか引っかかっているのかと思ったら。

雪子 だからそれはあんたも同じ。

妙子 いや私は全然違う。

雪子 は？

妙子 こっちが力不足に思うだろうが。散々優しくしてやってんのに、いつまで

も引きづられたら。

雪子 …。

妙子 でしょ？

雪子 ずるいよ。

妙子 ずるくない。なにそれ。

雪子 ずっと腫れ物じゃん、私達。優しくされてるのか、気を使われてるのか判
断つかないでしょ？、なにをそんなに堂々と。

妙子 …。

雪子 ずるい。あんただけ凶々しいの、ずるいよ。

妙子 …。

居間のエリアに幸子が現れる。

雪子 私、仕事、クビになったから。

妙子 それこそ今関係ない。

雪子 …（鼻で笑う）。

妙子 …え？

居酒屋エリア、暗転。

居間では幸子が一人、電気を点けずに座っている。
鶴子のスペースのカーテンは開いており、鶴子がいなかったことがわかる。
部屋の中には数本の光の筋が差し込んでいる。

貞之助がやってくる。

貞之助
…。

貞之助、一瞬、電気が点いてないことに驚くが、そのまま座る。

幸子 電気つけないの？

貞之助 …。

幸子 …。

貞之助 …どうするよ？

幸子 …妙子のために売る必要ないよ。

貞之助 そうだけど、そうもいかないだろ。…俺の土地ならあれだけど、君達の家
なんだから、

幸子 あー…、だから、別にもう大人だし、

貞之助 当時は子供だったんでしょ？

幸子 まあうん。でも今は大人だし、妙子が一人で払えばいいという意見を言い出す人がいるよね、たぶん。

貞之助 誰？

幸子 私とか。

貞之助 ああ。(光に気付いて) …ん？、…あれ？

貞之助、光を追って、天井の開いた穴に気付く。

貞之助 わあ。

幸子 どうりで寒いわけだよね。

貞之助 散々石投げられたからなあ…、…値段が下がっちゃうね。
幸子 …。

貞之助、窓の外を見る。

幸子 好きだね。

貞之助 え？、ああ違うよ。工事現場。

幸子 ん？

貞之助 今、前通ったら、すごい大きな、あれなんだろうな、クレーンじゃなくて、基礎の、杭打ちをする機械？。ほら、さきつぽが見えるよ。すごいよ。でかい。

幸子 (興味ない) うん。

貞之助 あの辺りがA棟で、あっちがB棟で、本当はこの辺りにC棟が建つ計画もあつたんだよ。∴売れないかな？

幸子 ここ？、今更でしょ。

貞之助 あそこの業者じゃなくても。価値はあるってことだろ。

幸子 え、あんたがそう言い出しちゃうと、私が悪者になっちゃうんだけど。

貞之助 ∴。

幸子 そりゃしばらくは気分が悪いけど、そのうち忘れるでしょ。家は売ったらそれでもうおしまいだよ。

貞之助 そうか。

幸子 妙子だって、あの同級生のこと忘れて生きてるんだから。

貞之助 いや、それは夜な夜なうなされてるかもしれないだろ。

幸子 うなされてないかもしれない。

貞之助 かもしれないけど、

幸子 でも家を売ったら、それはもう売ったってことだよ。売ったけど売ってないかもしれないなんて可能性はないの。

貞之助 まあな。

幸子 だったら、まずは可能性のある選択に賭けてみるのが前向きじゃない？

貞之助 …。

幸子 妙ちゃんを見捨てるも恨まれない可能性。

貞之助 仕事、クビになった。

幸子 …え？

貞之助 正式にはまだだけど、クビになるな。

幸子 なにしたの？

貞之助 妙子ちゃんが賠償金払ってなかったことが記事になったら。それでまあ同居してるし、そういう人間の親族を雇ってるのはどうだろうかみたいなのクレームがあったって。

幸子 私達に払う必要がないって裁判所が言ってるんだよ？

貞之助 でも本人が払わないなら、親族が負担しろってことだろ。

幸子 クビにしたら尚更払えないじゃん。

貞之助 知らないよ。一応、積み立てた分は払った方がいいんじゃない？そのため
の金だったんだし。

幸子 クレームって、…お姉ちゃんじゃないよね？

貞之助 誰でもいいよ。誰でも一緒だもん。

幸子 …。

貞之助 殴られたら痛いじゃん。相手が誰でも痛いでしょ。理由がなんでも痛いでしょう。それと一緒に。

幸子 え、この人になら殴られてもいいとかもあるでしょう。

貞之助 …そういう趣味あったな。付き合いたての頃は。

幸子 …。

貞之助 あれ、お前だよな？

幸子 違うよ。

貞之助 だから万引きも一緒に。捕まえてるうちに、誰がやったとかどうでもよくなるよ。あるのは、万引きという罪だけね。罪っていうのは形がないから、もう捕まえられないよ。

幸子 え、この人になら盗まれてもいいとかもあるよ。一緒にじゃないよ。

貞之助 え？

幸子 あるでしょ。

貞之助 …長い年月を経て、いつしか俺達、会話の着地しない夫婦になってしまったな。

幸子 会話がないよりましだよ。

暗転

水の流れる音が聞こえてくる。

明転するころには数日が経った。

エリア明かりの中で、高梨が懐中電灯を片手に辺りを見ている。高梨、何かを発見して、

高梨 あ、来ました来ました。行きましょう。

と声をかけるが、誰もいない。

高梨 あれ？

その頃には舞台の他のエリアも明るくなる。

そこに防寒着を着て、「不法投棄反対！」と書かれたゼッケンをした一同が外用の椅子に座っている。

幾人かはランタンなどを持っている。

居間にあったラジオを誰かが持ってきたのか、AM放送が流れている。

高梨 ちよつと雪ちゃん、ほら、

雪子 なに？

高梨 ああ、行っちゃった。

妙子 ただの散歩でしょ。ほら、犬連れてるし。

高梨 でももれなく全員に声かけてくれてって言われてるんで。声かけが一番の防
止策だって。

鶴子 誰に？

高梨 ですからお坊さんに。

一同 …。

雪子 やっぱりこれ怪しいわ。

高梨 いやいや、

雪子 こんな監視にさ、こんな人数いらないじゃん。

高梨 でも業者みたいな人が、大勢で来て捨ててくこともあるらしいんで、（こ
れくらいいた方が）安心でしょ？

幸子 勧誘したいからじゃなくて？

高梨 ああ、それは大丈夫ですよ。

幸子 信者にはなれないよ。

高梨 だって、僕も別に入信してませんから。働いてるだけで。

貞之助 まあまあ若旦那もさ、俺達のこと思って、紹介してくれたわけだし。

一同 …。

高梨 あ、また来ました。

幸子 ジョギングだよ。

雪子 私、行くよ。

高梨 あ、じゃあ。

貞之助 いい、いい。俺いく。若旦那は明日も本業があるんだから。

雪子と貞之助、去っていく。

鶴子 ねえ信者の人と、日給違ったりしないの？

高梨 さあ。同じだと思いますけど。

妙子 どういう意味？

鶴子 同じ仕事して、金額を差別されるなら、入信しちやった方がいいのかなって。

妙子、ポットからお茶を出して飲み出す。

一同、タバコを吸い出す。

幸子 何言ってるの？

鶴子 聞いたらさ、商店街の寄り合いとかと変わりないみたいだよ。みんなで温泉旅行、行ったりとか。

幸子 お姉ちゃん、そういう寄り合いとか大嫌いでしょ。

妙子 テストとかあるのかな。

高梨 さあ。

妙子 お経とか覚えなくていいなら、名義だけ入ってもいいよ。

幸子 やめて。

鶴子 米粒にお経書けるようになりたい。

妙子 全身にお経書いて耳だけそがりたい。

幸子 どうせ信じる者は救われるとか言われるよ。

妙子 だ。信じるのは無理。

高梨 あ、そんな感じじゃないみたいですよ。

妙子 え？

高梨 神様って、信じてなくなっちゃって救うらしいですよ。いざ救うぞってなった時は、こう網でザバツと魚を掬うように人を救うって。

鶴子 そんなにおおざっぱなの？

暗転。

別エリアが明転して、雪子と貞之助が走ってる。

貞之助 （諦めて）…ダメだ、追いつけない。

雪子 まあつまり完全にジョギングの人ってことですよ。

貞之助 せっかくだからもうちよっと頑張ろう。

雪子 そんなに追いかけたら通報されますよ。

貞之助 …ま、身体は暖まったわ。

雪子 …。

貞之助 なに？

雪子 いや、これ、妙子がやるべきことですよね。

貞之助 あー、まあ、でも、今となってはこっちも生活あるから。

雪子 それも含めて。

貞之助 （なんか雪子が面倒臭くて）…お、ライトアップされてる。大仏様も紅葉祭りだ。

貞之助、遠くの大仏を拝む。

雪子 それ、中姉ちゃん、嫌がってますよ。

貞之助 うん、なんだろうね、あれ。俺はでかいものが好きただけなんだけど。お

台場でガンダム見た時も拝んだもん。…戻る？

雪子 …みんな妙子に甘いと思うんだけど。

貞之助 そりやそっちの方が楽しいからでしょ。

雪子 …は？

貞之助 警備員しててもさ、何も起きないとほんっとつまないけど、自分の対応できる範囲のトラブルが起きるとワクワクするわけ。万引き犯とか、この不法投棄犯とかさ、すげーやる気であるよ。それ以上の面倒はスルーするけど。

雪子 …。

貞之助 ま、妙子ちゃんの件も、ちょっとスルーし切れなくなって、参ってるけど。

雪子 はあ。

貞之助 あ、だから鶴子さんも俺、実は嫌だったんだよ。会社を告発とかさ、もうそれはやらせとけていう。相手が組織って時点で引くよ。太刀打ち出来ないものに立ち向かってもむなしくなるだけからね。

貞之助、大仏に拍手。

貞之助 あ、電気が消えた。ね、ちやうど消えた。見た？

雪子 見逃しました。

貞之助 …。

雪子 戻ります？

貞之助 …俺、年とってさ、もうずいぶん前から肉食えなくなったのね。

雪子 …？、はい。

貞之助 でもそれ、肉が嫌いになったわけじゃなくて、肉に執着がなくなっただけだからさ。肉がうまいってことは重々承知してるわけ。

雪子 はい。

貞之助 だからこう、好きだったのに醒めちゃったなあとかじゃなくて、好きなままちよつと執着がなくなったんだと考えればうまいですよ。

雪子 ……あの、若旦那と仲悪いわけじゃないですよ。

貞之助 あ、そうなの。

雪子 やっぱりその話ですか。

貞之助 あ、それならそれでいいんだけど。

雪子 ……気になりますか。籍入れてないの。

貞之助 え？！

雪子 …え？

貞之助 籍？、…え、籍入れてないの？

雪子 …知らなかったんですか。

貞之助 …へえ。

雪子 急に興味ないみたいな。

貞之助 だって俺の対応できる範囲の話じゃないみたいだから。

雪子 …。

貞之助 あれ、…あれ、軽トラかな。

雪子 はい？

貞之助 あそこ！、…ほら、ライト消したまま走ってる。

貞之助・雪子 …。

このエリア、暗転。

河川敷が明転すると、一同、寒いからか、ラジオから流れる曲に合わせて踊っている。

高梨 …だから、町歩いてる女の人を口説くのと、キャバクラとかスナックで働いてる女の人を口説くのは違うじゃないですか。

幸子 わかんない。

妙子 あ、ノンケを抱きたいゲイボーイみたいなこと？

高梨 そうです！

妙子 おお！

高梨 そういふのと一緒に、信じてない人こそ救ってみたいっていう神様もいるらしくて。

一同（感心）

妙子 ね、これ、踊ってるだけになってるけど。

鶴子 寒いから。

幸子 いいんじゃないの、ここに監視員がいるぞってアピールしとけば、みんな捨てずらいでしょ。

高梨 そう。見てるぞってことを伝えることが大事だと思います。
妙子 …。

妙子、踊りながら去っていく。

鶴子 どこ行くの？

妙子 タバコ買ってくる。あと着るもの取ってくる。朝までもたないわ。

幸子 アルコールも。

妙子 うい。

鶴子 待って、私も行く。耐えられない。

妙子 うい。

鶴子と妙子、踊りながら去っていく。

高梨 ……これ、監視するのに市から予算下りてるんです。で、委託された予算を使い切るのに人数いた方がいらしいんですよ。

幸子 え？

高梨 鶴子さん、怒りそうだから、そういうの。

幸子 ああ。…仲いいね。お坊さんと。

高梨 長いですから。…入信してませんよ？

幸子 どっちでもいい。

高梨 もう少し踊ります？

幸子 いい。(ラジオを)消して。

高梨 はい。

が、高梨がスイッチに触れる前に、幸子がラジオを指さすと音が消えた。

高梨 あれ。

幸子 ……。

高梨 壊れちゃったかな。

幸子 私が消した。

高梨 ……？

幸子 消してって言われたから消そうって思ったでしょ？、私も消そうって思っ

たから、そうなると消せる。

高 梨 あ、はい。

幸 子 これってその仲のいいお坊さんに紹介してもらえる？

高 梨 …あ、ごめんなさい。聞き逃しました。

幸 子 これって紹介してもらえる？

高 梨 え、何を、誰に、ですか？

幸 子 この力。能力。幸子パワー。

高 梨 …。

幸 子 (ラジオを)つけて。

高 梨 あ、はい。(が、触れる前にラジオ点く) …また。

幸 子 幸子パワー。

高 梨 …なにをおっしゃってるんですか？

幸 子 ネーミングセンスがないのはわかってる。

高 梨 そこは気になってないんですけど、

幸 子 お金になりそう？、なんかこう大仏パワーみたいなことにしてもらって

いから、5700万くらい稼げそう？

高 梨 …ああ。なるほど。

幸 子 …どう思う？

高 梨 どうですかね、その、ラジオのスイッチをオンオフするだけで5千万も稼

げるのか、

幸子 その場にいる人間が心をひとつにすると、それが私の手を通して、物をちよつとだけ動かせます。幸子パワー。

高梨 …… こういうのって、1回疑つとかないとバカだと思われませんか？

幸子 面倒臭いから信じて。どう？

高梨 …… みなさん、真面目なお坊さんですからね、ちよつと、

幸子 じゃあいいや。

高梨 …… すいません。

幸子 ……

高梨 ……

高梨、ラジオを置き、何気ない感じで離れていく。

高梨 あ、そうだ、毎晩この時間、聞いているラジオあったんだ。そうだそうだ…、

えつと、スイッチ入れてもらえます？

幸子 いまさら試すような真似すんの？

高梨 すいません。

幸子 …… スイッチオン！って思って。

高梨 はい。

幸子、ラジオを指さす。

ラジオのスイッチが入り、音楽が流れ出す。

高梨 …これは、いつから？

幸子 物を動かせるのは生まれた時から。ルールを把握しだしたのが小学生くらい。

高梨 …みんな知ってるんですか？

幸子 小学校の時に、家庭科で手さげ袋作ることになってね。手縫いが面倒で、6人くらいかな、友達の家を集まってミシンで作ってたら、ミシン針が貫通したの。その中の一人の親指に。で、取ろうって思って。咄嗟に手をかざしたら、針、びくともしなかった。

高梨 …あんまり強い力ではないってことですか？

幸子 その場に、針が抜けなくてもいいって思ってた子がいたってことだよ。

高梨 …あ。

幸子 で、人に言う気にならなくなった。

高梨 …なるほど。

幸子 …。

高梨 それって、他のみなさんは？

幸子 さん？
高梨 雪子さんは使えないんですよね？
幸子 たぶん。
高梨 使えたら話が早いんですけどね。
幸子 ……ん？

と、貞之助が走り込んでくる。

貞之助 おい！
幸子 なに？
貞之助 落ちたぞ！
幸子 は？
貞之助 川に落ちた！
幸子 誰が？

遠くから雪子の声が聞こえてくる。

雪子（声） おーい！
一同 ……？

雪子（声） こっちー！

高梨 雪ちゃん！？

一同、駆け寄るが川の中に雪子の姿はない。

高梨 どこだ？

幸子 暗くて見えない。

高梨 雪ちゃん！？

別エリアにずぶ濡れの雪子が、おぼれながら現れる。

雪子 こっちだよー！

高梨 どこ！？

雪子 えー、川の中ー！

幸子 本当におぼれてるの？

貞之助 いや、おぼれてるよ。

幸子 なんか余裕ありそうな感じだったけど。

高梨 確かに…、

雪子 こっち見てー…、

貞之助 いた！

幸子 流されていく！

音楽。

例えば西内徹バンド「North of the River Tama」ような曲。

幸子、貞之助、高梨の3人、雪子を追ってはけていく。

雪子はその場でずっと流されていく。

雪子 大きな声で助けると叫ぶほどの状況なのか、それはちよつと大袈裟なのか、113

自分では判断がつきませんでした。はたからみれば絵に描いたような溺れようだったのだけれど、この時は川岸で追いかけるみんなだつて絵の一部で、その絵を冷静に見ている人などいなかったのです。

別エリアに鶴子と妙子が現れる。2人、厚手の上着を羽織っている。

鶴子 ……雪子！？

妙子 ……。

すぐに雪子を追って去る鶴子。
と、その場に残る妙子。

妙子 …。

このエリア、暗転。

雪子、まだ川の中である。

雪子 いつものまにか浅瀬に流れ付いて、川底に足がついて、でもその時はまだそれが川底なのか、固めの空なのかわからなくて、希望も込めて、これを川底とするって決めてみたらすくと立てた。立ってみたらくるぶしまでの深さです。いふんとヘナヘナしたのです。

幸子、貞之助、高梨が雪子のエリアにやってくる。

モノローグがいつものまにか一同に向けた言葉になっている。

雪子 だから私は分かったのです、上か下か右か左かを決めないとダメなんです。それを決めるにはどっちを向くかを決めるんです。

高梨 雪ちゃん？

雪子 例えば、あなたの方を向くと決めるんです。それだけ決めれば、上下左右は決まるんです。こっちが前、こっちが後ろと決まるんです。で、決まったうえで後ろ向きに歩くんです。

高梨 大丈夫？

雪子 はい。どこに向かっているかわからないよりずっと大丈夫ってやつですよ！

幸子 本当に大丈夫？

雪子 大丈夫ってやつですよ！

鶴子もやってきた。

鶴子 …雪ちゃん、大丈夫？

雪子 大丈夫ってやつですよ！

一同 …。

妙子が来た。

妙子 え、大丈夫…、

幸子 大丈夫なんだって。

妙子 …ああそう。

雪子 妙ちゃん、なにしてたの？

妙子 え、タバコを買いに。

雪子 妙子のためにやってるんだよ。

妙子 え、みんな、仕事がなくなったからやってるんでしょ？

雪子 だから妙子のせいでなくなったんだよ？

妙子 そうだね。そういう

雪子 なんか嫌だ。みんなのことちよつとづつ嫌いだけど、妙子が一番嫌だ。自

分のしたことをさ、お金で償えるんじゃない。頭のいい人が裁判して、こうし

たらあなたは許されますよって決めてくれたんじゃない。そしたらそれで償え

ばいいじゃん！許されたくないの？

妙子 …。

幸子 風邪引くから、一旦、家帰って…、

雪子、みなまで聞かずに帰りかける。

妙子 さつき、すごい似てたよ。

雪子 …は？誰に？

妙子 ヨシコに。

雪子 ヨシコって誰？

幸子 雪ちゃん。

雪子 …（思い出して）ああ。

妙子 さつきみたいにヨシコが流れていくの私、見てたんだよ。

一同 …。

妙子 …キ姉ちゃんの裸がネットに出て、クラスで立場がちよっとおかしくなつて。学校行きたくないなつて河原でタバコ吸ってたなら、ヨシコが流れてきたの。

雪子 え？

妙子 だから本当に事故なんだよ。

幸子 じゃあなんで裁判の時にそう言わなかったの！

妙子 直前にここでヨシコに会ったの。なんか彼氏にもっと綺麗になれって言われたってアイプチ買ったけどやっぱ使いたくないって捨てに来たって。家で捨てるよって言ったんだけど、万が一でもばれたら恥ずかしいからって。で、投げ捨てに川岸まで行って、私はバイバイって言ったけど、すぐにきやあ！って声がして、すべって落ちて流れていった。

一同 …。

貞之助 それは今からでも言った方がいいよ。

妙子 居たたまれないでしょ、ご両親もさあ。娘がそんな事故で、アイプチ捨てに来て死んだなんてさあ。それよりも私を恨んだ方がまだ気が休まると思っ

たの。

幸子 なに言ってるの？

雪子 え、そんな理由のために賠償金払えないよ？

妙子 …。

雪子 ちよっと！

妙子 いじめてたの。ヨシコのこと、めちやくちやいじめてたの。みんなが無視して無視はすぐ飽きて、10人くらいで同時に話かけたりしてたの。一日中、そばにいてずっと話かけて。交代で。おかしくなってたよヨシコ。

一同 …。

妙子 だからあの時私が突き落としたんじゃないかとか、川で無理矢理泳がせたんじゃないかって友達みーんなが警察に言い出した時も、まあそう思うだろうなって。

雪子 …いやあごめん、全然納得できない。

妙子 賠償金って払わなくてもなんとかなるって聞いたことあったし。

貞之助 ただ、今ね、なんとかならないからね、

妙子 まさか12年経って、改めて差し押さえの判決が出るなんてね。

鶴子 それよりも、だって、いいの？誤解されたままで。

妙子 うーん、まあ誤解されるだけのことはしてたから。

鶴子 でも誤解は誤解でしょ？

妙子 ……なんか勝手に、子供だったからかな、勝手に、誰か一人、本当のことわかっててくれればそれでいいかなって。

幸子 言わなきゃ誰もわかんないよ。

妙子 なんかそんな風にすりこまれて育った気がするんだけど。誰かが勝手に全部を見てくれて、全部をわかっててくれるみたいなの。

幸子 そんなわけないよ。

妙子 うん。ちよつと12年もかかっちゃったけど、今、思いがけず、こうして話して気が付いた。……そんなわけがないね。

一同 ……

幸子（N） その年の秋はとても短かった。

音楽。

冬の庭で鶴子がパン屑を撒いている。
雪子がやってくる。

工事現場で杭打ちをしている音がする。

雪子 掃除したのに。

鶴子 (無心でパン屑を撒き続ける)

雪子 掃除したのに。

鶴子 (気が付いて) ああ、雨、降りそうだよ。

雪子 (噛み合っていないことは特に突っ込まず) 今、散らかすことないでしょ。

鶴子 昔はいつぱい飛んできたよね？

雪子 工事がうるさいから、雀も鳩も逃げちゃってんだよ。

鶴子 (現場の方を見て) ああ。

雪子 中、手伝って。

鶴子と雪子が部屋の中へ。

と、襖の向こうを貞之助と高梨が2人で段ボールを持って通り過ぎていく。

貞之助 待って。

貞之助、段ボールを下ろして、居間にあるものを適当に詰め込む。

鶴子と雪子もそれを手伝う。

そこへ幸子がカメラを持って現れる。

幸子 妙ちゃんは？

鶴子 さあ。

幸子 写真撮るって言ったのに。…じゃ、とりあえず私だけ撮って。
鶴子 みんなで撮ろうよ。

幸子 撮るけどとりあえず（と貞之助にカメラを渡す）

貞之助 なに？

幸子 遺影用。

雪子 なに？

幸子 遺影用の写真がないの。

一同 …。

幸子 別に死ぬ予定はないよ？

鶴子 なんなの？

幸子 ついでだから。みんなも撮っておきな。もしもの時のため。

貞之助 ほら。

幸子、表情を決める。

貞之助 （一応撮るが）それじゃあ悲しめなないよ。

幸子 なんて。

貞之助 せっかくだから、みんなが泣ける顔しなよ。

幸子 …え、知らない。どうしたら泣けるの？

高梨 やっぱり笑顔じゃないですか。

幸子 若旦那は泣かなくていいよ。

高梨 なんですか。

幸子 え、雪子が死んだら泣きなよ。

高梨 …はい。え、泣いたらダメですか。

幸子 ダメじゃないけど、そんなに思い出もないし。

高梨 今はまだないですけど、これから増えるでしょうし。

幸子 えー…、

高梨 だって今日、死ぬわけじゃないですよね？

幸子 …そうか。

貞之助 ま、笑顔は定番で泣けるよ。

幸子 あんたの希望は？

貞之助 え。

雪子 (冷やかす)

貞之助 なに？

雪子 愛する人に一番泣いて欲しいんだよ。

貞之助 は？

幸子 …。

高梨 否定しませんね。

雪子 (冷やかす)

幸子 希望は？

貞之助 付き合い立ての頃のさ、

幸子 またそういう…、

貞之助 ああ、違うわ。付き合う前だ。付き合う前に、合ハイ行ったら、筑波山に。

幸子 ああ。

貞之助 俺、待ち合わせに遅れて行ったんだよ。筑波線のさ、

幸子 筑波線なんかもうなかったでしょ。

貞之助 まだあったって。で、行ったら、今のサイクリングロードの休憩所辺りで

さ、谷口と話してたんだよ。

幸子 ああ谷口さん。いたね。口に拳の入る谷口さん。

貞之助 うん。

幸子 まつげにマッチ棒の乗る谷口さん。

貞之助 うん。その谷口さんが深刻そうに話してて、お前、たぶん谷口さんを慰めてたんだよ。それを見てて。ちよつと離れたところから。

幸子 うん。

貞之助 …。

幸子 で？

貞之助 その時の顔がいい。

幸子 はあ？

貞之助 その時の顔がいい。

幸子 覚えてないよ。

貞之助 希望を聞かれたから。

幸子 …努力はしてみる。

貞之助 おう。

貞之助、カメラを構える。

幸子、谷口さんを慰めた時の顔をする。

幸子 …。

結果、この世の全てを慰める顔になる。

鶴子 …。
貞之助 …。
幸子 撮った？
貞之助 (シャッターを押す)撮ったよ。
幸子 雑じゃない？
貞之助 撮ったって。

貞之助、カメラの液晶を見る。

幸子 じゃ、次、お姉ちゃん。
鶴子 私はいいよ。
幸子 撮っておきなつて。
鶴子 みんなで撮ろう。
雪子 妙子がいらないから。
鶴子 呼んでくるよ。

鶴子、部屋を出ていく。

幸子　なんか羽織っていきなよ。すごい寒いよ？
鶴子　うん。

貞之助、まだ見ている。

高梨　運んじやおう。
雪子　うん。

高梨と雪子、段ボールを抱えて部屋を出ていく。

幸子　…ちゃんと撮れてんの？

貞之助　ううん。

幸子　なんだよ。

貞之助　お前、この顔で死ねよ。

幸子　は？

貞之助　写真は写真だな。最後はこの顔で死んでくれよ。

幸子　…。

雪子が戻ってくる。

雪子 傘、どこにしまった？

幸子 ン？

雪子 雨降ってきた。

幸子 捨てたよ、全部。

貞之助 なんで？

幸子 ビニール傘しかなかったから。

貞之助 高いビニール傘だって混じってたんだぞ！

いつのまにか止んでいた杭打ちの音が再び聞こえる。

先程よりも音が大きい。

幸子 …なに？

貞之助 基礎工事だろ。さっきからずっと、

音がどんどん大きくなる。

雪子 …これ、足音じゃない？

幸子 …なんの？

貞之助 …… 大仏様だ！

貞之助、窓に駆け寄る。

貞之助 …… 見ろ、大仏様が、…いつも通り立ってるぞ。

幸子 なによ、もう

雪子 え、じゃあ、

その時、大きな倒壊音。

一同 ……！？

高梨が戻ってくる。

高梨 倒れました！

貞之助 大仏か！？

高梨 工事の、クレーンみたいな…、

一同 ……？

一同、とにかく出ていく。

と、すぐに妙子が鶴子を抱えてやってくる。
追って一同も戻ってくる。

鶴子 …うう、…、
幸子 なに、なんなの？
妙子 お姉ちゃんが、工事現場入り込んで、勝手に杭を打ってた。
幸子 は？
妙子 杭打ちマシンに乗り込んで、最終的にそれごと倒れた。
雪子 …救急車。
鶴子 大丈夫大丈夫。
幸子 動かしちゃダメなやつじゃない？
妙子 だって！まずいでしょ？
幸子 なにが？
妙子 あのマンションだよ？、同じ業者でしょ？
幸子 救急車。
雪子 うん。
妙子 待ってって！

幸子 なに？

妙子 ここ、買ってもらえなくなるよ！

雪子 ……そんなことよりでしょ？

妙子 いやでも、

鶴子 杭を打つ回数を数えてたの。そしたらちよつと足りない気がしたのね。これ、手抜きかなって。

幸子 なになに？

雪子 喋らせてなくていいよ！

鶴子 ……でも誰かに言うのと、また変な扱いされるから、

雪子 わかったから。

貞之助 （電話を促して）おい。

高梨 あ、はい。

高梨、電話をかけ始める。

高梨 ……あ、もしもし、…あの救急車を、…はい、牛久市神谷5の、

雪子 もうなによ、なんなの…、

妙子 なんて私を睨むの。

雪子 ……。

妙子 はあ？！
幸子 …ねえ、死んでない？

いつのまにか鶴子、死んでいる。

妙子 いや、大丈夫だよ。

幸子 死んでるよ。

雪子 死んでないよ。

幸子 死んでるよ。

妙子 なに殺したいの？

幸子 だって死んでるじゃん！

一同、駆け寄る。

妙子 脈がない気がする！

雪子 救急車は？

高梨 呼びました。呼んでいます。

妙子 なんかマッサージ！

雪子 なんかかって？

貞之助 あるだろ、A E Dとか。

幸子 どこに？

貞之助 どっかにあるだろ。

雪子 公民館！

幸子 取りに行くの？！

雪子、妙子、出ていく。

貞之助 タクシー呼んでくるわ。

高梨 あ、はい。

貞之助 先に救急車来たら乗せろよ。

貞之助、出ていく。

高梨 …え、あ、え…、（とりあえず起こそうとする）

幸子 …触らない触らない。

高梨 （何かを思いついて）…あ、

幸子 安静にしておかないと。

高梨 …あれ、ちよつとだけ動かさせませんか？

幸子 動かさないで。

高梨 違います。幸子パワー。

幸子 は？

高梨 心臓、動かしてみませんか？

幸子 ……嫌だ。

高梨 なんですか。

幸子 どうすんの、ほんとに生き返ったら。

高梨 やややや、いいじゃないですか。

幸子 そんな大それたこと。幸子パワーっぽくない。

高梨 っぽいとか、ぽくないとかじゃない状況でしょ？。

幸子 だって、もつと、軽い気持ちで、ちよつとしたものを動かすためのパワーだから。

高梨 ちよつとでも、1回でも動けば、それで生き返るかもしれないでしょ！？

幸子 ……。

高梨 え、何が嫌なのかわかんない！

幸子 ミシン針の話したよね？

高梨 ……え？、ああ…、いや、僕はちゃんと動け、生き返れって念じますよ。

幸子 私かも知れない。

高梨 は？

幸子 あの時、針が抜けなくてもいいって思ったの、私かもしれない。

高梨 …？

幸子 一瞬、思っちゃうことあるでしょう？。大事なことほどもちやくちやしちやいたいとかが、全部台無しになっちゃえとか、それ、一瞬でもよぎったら
終わりだよ。

高梨 ま、ありますけど、よぎっちゃったら、もう1回やりなおせばいいわけで、

幸子 …死にそんな姉を前にして、自分が、混じり気なしの“生き返れ”を祈れない人間だったなんてことを万が一でも知りたくないって言うてんの！

高梨 自信持つててくださいよ！

幸子 嫌だ！

高梨 とりあえず僕ら2人がしつかり思えば、うまくいくんですから！

と、雪子と妙子が戻ってくる。

妙子 ダメだ、公民館が杭打ちマシンの下敷きになってる。

幸子・高梨 …。

続けて貞之助も戻ってくる。

貞之助 タクシーなんか全然走ってないわ。

幸子・高梨 …。

貞之助 …どうした？

高梨 幸子さんが、あの、

幸子 …心臓マッサージできる。

妙子 出来るの？

幸子 うん。出来る。思い出した。私、出来るんだった。

幸子、鶴子の胸を指さす。

一同 …。

幸子 (手を下げて、一同の顔を見る)

高梨 幸子さん？

幸子 …意外とダメでもととの顔ぶれだなあ。

貞之助 なに？

幸子、改めて指さして、

幸子 動け、心臓。

鶴子、跳ね起きる。

鶴子 あはあああい！

妙子 お姉ちゃん！

鶴子 …。

雪子 …お姉ちゃん？

鶴子 見たよ見たよ、走馬燈！

妙子 お姉ちゃん！！

鶴子 私、大勢のカメラマンに囲まれてたよ！

雪子 なに？なんの話？

鶴子 走馬燈だよ！

妙子 走馬燈？

鶴子 大勢のカメラマンが見守る中で、2人の男がやってくるんだよ！

雪子 なに、死後の世界？

貞之助 三途の川でも見たんだろ？

鶴子 川じゃなくてマンションだった。大勢のカメラマンの前で、2人の男がガラスを割ってとある部屋に窓から侵入するのね。で、しばらくして、血だら

けになって戻ってきて…、それをカメラマンが一斉にシャッターを切って…、
貞之助 それ豊田商事の会長の家じゃないか？

鶴子 …あ、そうだね。…ねえ、人は誰もがあの世へ行く途中で、豊田商事の会
長のマンションの前を通るよ！

一同 …。

鶴子 …行間。

鶴子、立ち上がったの力説で元気そう。

妙子 …なんだろう、出来るだけ長生きしたいと思ったよ。

雪子 そうだね。

貞之助 ま、身体が大丈夫なら、頭の方はおいおい。

一筋の雪が降ってくる。

貞之助 …ん？

天井に開いたこぶし大の穴から、雪が部屋の中に降っているのだ。

貞之助 あれ、全部塞いだはずなんだけどな。

鶴子 …潮時だったね、この家も。

音楽。

例えば Al green 「God Is Standing By」のような曲。

以降、幸子の台詞に沿ってそれぞれにサスが。

まずは鶴子にサス。

幸子 そういった姉さんは、3年かけてまともになった後、鎌倉にアルフォート

みたいなブローチを置くお店兼ギャラリーをオープンさせた。

雪子と高梨にサス。

幸子 雪子と若旦那の間には男の子が生まれ、すくすくと成長し、14才になっ

たある日、ネットで母親の裸を見つけたが、その頃には雪子はぶくぶくに太っていたので気付かれず、普通に息子のオカズになった。

妙子にサス。

幸子 妙子はお店を変えながら美容師を続け、8年目に自分の店を持った。店の名前は妙子のTと、貞之助のSで、

貞之助にサス。

幸子 T&S美容院といった。2人は人もうらやむ仲の夫婦になったと人づてに聞いた。

鶴子がサスの中で誰かを介抱している。

幸子、そんな鶴子を見ながら、

幸子 私は思っていたよりもずっと早く、58才で通り魔に刺されて死ぬことになった。その時、一緒にいたのはお姉ちゃん、お姉ちゃんは喉を切られてスースーとしか言えなくなった私を見て、いつか私が自分にしたらしいと聞きかじったことを思い出して、私の胸を指さして、信じたり念じたりしたけれど、私はもう動くことはなかったそうだ。

鶴子 幸子！

幸子 そのことでお姉ちゃんはその後、一角のニヒリストになって、何かに心を

寄り添わせることはなくなってしまったようだけど、その話は私が死んだ後のことなので実はよく知らない。私が知っている一番最後の景色は、

鶴子、周りの野次馬に向かって、

鶴子 あのみなさん、せーので、同じことを思ってください！

幸子 と言っているお姉ちゃんの姿だ。そう、私が最後に見たものは、

鶴子 せーので、同じことを思ってください！

幸子 と言うお姉ちゃんの顔だった。

鶴子 みんなでじゃないとダメなんです！

幸子 私は、いつかの約束どおりの顔を、相手は違ってしまっただけだけど、思い出してしてみせた。お姉ちゃんを、ずっと見つめてアルカイツク！、そっと見つめるアルカイツク！

鶴子　いきますよ。せーの、

劇場中の人々が心をひとつにした瞬間、暗転。

【了】